# 山形西高敷地内遺跡

第5次発掘調查報告書

1993

山形県教育委員会

# 山形西高敷地内遺跡

第5次発掘調查報告書

平成 5 年 3 月

山形県教育委員会

本書は、平成4年度に山形県教育委員会が発掘調査を実施した山形西高敷地内遺跡第5次発掘調査の成果をまとめたものです。

山形西高敷地内遺跡は山形県のほぼ中央に位置する山形市にあります。

現在、生徒の学び舎となっている県立山形西高等学校の敷地は、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・江戸時代の人々が生活の場として選び利用していたところです。奥羽山脈を背にして、馬見ヶ崎川が形成した豊かな扇状地の先端であるこの地を、各時代の人々はこよなく愛していたことが伺い知れます。

埋蔵文化財は私たちの祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な国民的財産であり、一度壊してしまえば二度と元に戻らないものです。調査により明らかにされた遺跡は過去の生活の有様を彷彿と再現してくれるものです。祖先の歴史を学ぶとともに愛護し子孫へと保存し伝えていくことが、現代に生きる私たちに課せられた重要な責務といえるでしょう。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りという立場から、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様の御理解の一助となれば 幸いと存じます。

最後になりましたが、調査において御協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に 心から感謝申し上げます。

平成5年3月

山形県教育委員会教育長 木場清耕

# 例 言

- 1 本書は山形県立山形西高等学校創立90周年記念事業実施委員会の委託を受けて、山形 県教育委員会が平成4年度に実施した上記記念事業に係わる山形西高敷地内遺跡の第5 次発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成4年8月17日から同年9月14日までの延べ22日間行った。
- 3 遺跡の所在地は、山形県山形市鉄砲町1丁目15-46である。

4 調査体制は下記のとおりである。

調 査 主 体 山形県教育委員会

調 査 担 当 山形県埋蔵文化財緊急調査団

調査担当者 事務局長補佐 佐々木洋治

主任調查員 佐藤庄一 佐藤正俊

調 査 員 水戸弘美

事務局 事務局長 深瀬征二

事務局長補佐 鈴木常夫

主任調査員 野尻 侃

主任事務員 永井健郎

事務局員 渋江正義

- 5 発掘調査にあたっては山形県立山形西高等学校創立90周年記念事業実施委員会、山形県立山形西高等学校、山形県東南村山教育事務所、山形市教育委員会など関係機関に御協力を得た。
- 6 本書の作成・執筆は佐藤庄一、水戸弘美が担当した。編集は安部実、伊藤邦弘が担当 し、全体を佐々木洋治が総括した。
- 7 現地調査と報告書の作成にあたって、阿子島功氏、吉田洋一氏から御指導をいただいた。また、阿子島功氏・吉田由美子氏から玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。

# 凡例

1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次の通りで、第4次調査例を踏襲している。 遺構・遺物番号は各次調査毎に付している。図面上で混乱を来すような際は、遺構番号 の前に調査次名を記す。5 S T 2 は第 5 次調査 2 号竪穴住居跡を指す。

S T····竪穴住居跡

SG…河川跡

S D…溝跡

S K…土坑

SX…性格不明遺構

SP…柱穴

EL…炉・カマド跡 EP…住居跡に伴う柱穴

E U…埋設土器

RP…登録土器・土製品 RQ…登録石器・石製品

P…土器 S…石

- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記の通りである。
  - (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
  - (2) グリッドの南北軸は、N-15°-Eを測る。
  - (3) 遺構実測図は1/60・1/250・1/600他の縮図で採録し、各挿図毎スケールを付し た。
  - (4) 遺物実測図・拓影図は、 $1/3 \cdot 1/4$  を原則とし、おのおのスケールを付した。 ただし、縄文土器の文様展開を示す拓影図には、スケール任意のものがある。黒ベ タは須恵器を表す。拓影図は断面図の左に外面、右に内面を提示している。
  - (5) 遺物観察表中の計測値欄の()数値は図上復元による復元値を示す。出土地点欄 の「G」はグリットを示す。層位では「F」は遺構覆土内出土、「Y」は遺構底面出 土を示す。分類は第4次調査例を踏襲している。
  - (6) 遺構観察表中の遺構間の矢印は重複の旧→新の関係を示す。
  - (7) 遺物図版については、土器・陶磁器は1/3、打製石器・磨製石器は1/2、礫石 器・土製品は1/4で採録している。
  - (8) 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版ともに共通したものである。
  - (9) 遺構覆土の色調・遺物観察表の色調の記載については、1987年版農林水産省農林 水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

# 目 次

Ι		周査の経緯
	1	調査に至る経過
4	2	調査の概要
II	ì	遺跡の概観
]	1	立地と環境・・・・・・・・2
2	2	基本層序3
3	3	遺構の分布3
III	ì	遺構と遺物
]	l	縄文時代10
2	2	弥生時代
3	3	古墳時代
4	1	奈良・平安時代12
${\rm IV}$	ġ	<b>ミとめ</b>
1	L	遺跡の性格と年代観・・・・・・30
2	2	山形西高敷地内遺跡の複式炉31
É	こな	· 参考文献·······32
付編	ii	
		山形西高敷地内遺跡の立地環境」
		表
表 1		縄文時代土坑観察表
表 2		縄文時代住居跡観察表・・・・・・20
表 3		遺物観察表27
表 4		石器計測表

# 図 版

第1図	遺跡位置図2	図版 1	調査区全景•下層完掘状況
第2図	調査概要図4	図版 2	鍬入式風景・トレンチ調査作業状況
第3図	上層遺構配置図5		表土除去実施状況 • C 区調査状況
第4図	下層遺構配置図7	図版 3	基本層序ST2北壁、a-a'・b-b'
第5図	基本層序9	図版 4	C区西壁土層断面
第6図	C区平面図······13	図版 5	D区·E区土層断面
第7図	D区平面図15	図版 6	A 区下層·B 区上層遺構検出状況
第8図	ST41~43 · 45 · 47	図版 7	S T 1 住居跡・E L 22カマド
	•50·62, SX48平面図·····17		ST2住居跡完掘・SK3土坑埋土状況
第9図	S T 52 • 53 • 59	図版 8	B区IV層面までの掘り下げ状況
	S K54·55平面図19		B区IV層面検出状況
第10図	遺物実測図(1)21	図版 9	B区下層
第11図	遺物実測図(2)22	図版10	C区・D区完掘状況
第12図	遺物実測図(3)23	図版11	E区完掘状況・旧河道掘り下げ状況
第13図	遺物実測図(4)24	図版12	ST41・42・50住居跡・EL60炉跡
第14図	遺物実測図(5)24		SK49土坑半截・完掘状況
第15図	ST1 · 2, SK3	図版13	S T 43住居跡・E L 44炉跡
	4 • 7 ∼ 9 平面図25		S T 45 · 47住居跡完掘状況
第16図	遺物実測図(6)25	図版14	SX48落ち込み完掘状況
第17図	遺物実測図(7)26		S T53·59住居跡完掘状況
第18図	複式炉の変遷図(1)32		S T13住居跡・R P 1 遺物出土状況
第19図	複式炉の変遷図(2)33		ST15・16・17住居跡完掘状況
		図版15	S T21・S T18住居跡完掘状況
			S K26 • 27 • 28土坑埋土状況
			EU16出土状況・旧河道掘り下げ状況
			C 区調査・D 区記録作業状況
			現地説明会風景
		図版16	遺物(1)
		図版17	遺物(2)
		図版18	遺物(3)
		図版19	遺物(4)
		図版20	遺物(5)
		図版21	遺物(6)

## I 調査の経緯

#### 1 調査に至る経過

本遺跡は、山形市鉄砲町1丁目の山形県立山形西高等学校の敷地一帯にある。昭和51年 1月に校舎を改築するための基礎工事を行った際、地下1.5mから縄文時代中期の土器片が 発見され、遺跡(埋蔵文化財包蔵地)として登録されている。

調査は、校舎の改築や整備に伴って、昭和51年に第1次・第2次調査、昭和59年に第3次調査、平成元年に第4次調査が実施されている。その結果、縄文時代中期・晩期、弥生時代中期と古墳時代前期、および奈良時代から平安時代の遺構と遺物が確認され、県内でも有数の密集度の高い複合遺跡であることが確認されている。

県立山形西高等学校の創立90周年記念事業に伴い、敷地内の西側に同窓会館を建設することが計画された。工事により遺跡の一部が破壊される恐れがあるため、各関係機関との協議が重ねられ、第5次調査を実施する運びとなった。平成4年度、県教育委員会が主体となって、記録保存を目的とした現地調査が行われた。

#### 2 調査の概要

現地調査は平成4年8月17日から平成4年9月14日までの実働22日間行った。今回の調査区は、同窓会館建設工事によって、遺跡が破壊されると考えられる範囲に設定している(第2図)。調査区北側は、同窓会館がピロティとなるため遺跡に影響する基礎部分のみを、調査区南東側は、第2次調査で弥生・古墳時代の生活面までの調査を行っているため、縄文時代中期の生活面だけを調査の対象としている。調査面積は744㎡である。

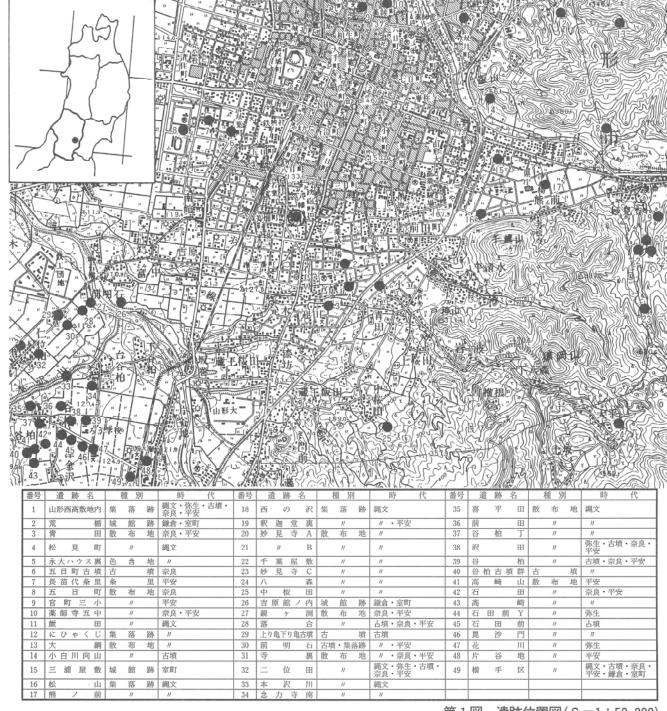
調査の開始にあたり、第4次調査を踏襲した2×2m単位とするグリッドを設定した。 グリッドの南北軸は、磁北から東に15°傾く。トレンチ掘りで層序の確認を行った後、重 機を用いて、奈良・平安時代の遺構検出面までの掘り下げを行った。面整理・遺構検出・ 遺構精査・記録の工程で調査を進めた。奈良・平安時代の遺構の調査終了後、人力で古墳 時代の遺構検出面までの掘り下げを行った。面整理の結果、明瞭な古墳時代の遺構が検出 されなかったため、続けて縄文時代の遺構検出面までの掘り下げを人力で行った。縄文時 代についても、奈良・平安時代の遺構と同じ工程で調査を進め、調査成果がまとまった段 階で現地説明会を開催した。現地調査の主な進行状況は、下記の通りである。

- 8月17日 機材搬入 鍬入れ式 環境整備 調査区設定
- 8月18日 トレンチ調査開始(~8月19日)
- 8月20日 重機による表土除去開始(~8月21日) 奈良・平安時代面整理開始(~8月21日)
- 8月21日 奈良・平安時代遺構精査開始(~8月28日)
- 8月31日 古墳時代遺構検出面までの掘り下げ開始(~9月2日)
- 9月2日 古墳時代面整理 縄文時代遺構検出面までの掘り下げ開始(~9月3日)
- 9月3日 縄文時代遺構精査開始(~9月12日)
- 9月11日 現地説明会(参加155名)
- 9月14日 機材搬出 環境整備

# II 遺跡の概観

#### 1 立地と環境

山形県の東寄りほぼ中央に所在する山形盆地は、南北約40km、東西約12km、約400kmの面積を有する。北は袖崎丘陵で尾花沢盆地と、南は蔵王火山の泥流で上山盆地と画されている。西方に朝日山地、東方に奥羽山脈がそびえ、夏のフェーン現象、冬の降雪を引き起こす原因となっている。奥羽山脈を源にする河川が、扇状地を発達させながら盆地を東から西に横断し、盆地中央を北流する最上川に注ぎ込んでいる。その中でも、馬見ヶ崎川は扇状地を特に発達させ山形市のほぼ中央を西流している。馬見ヶ崎川扇状地に見られる遺跡



第1図 遺跡位置図(S=1:50,000)

の在り方は、当地における遺跡分布の時代性をよく示している。縄文時代は扇頂から扇央 部に散在し、古墳時代以降扇端および周辺に広がりを見せる。弥生時代については判然と しないが、古墳時代の在り方や境田遺跡の状況から扇端部分に埋没している可能性が高い。 山形市の中心部をなす山形城の城下町は、扇央部湧泉帯に営まれ、現在の市街地の広がり 方とほぼ重なる。その中央を羽州街道が南北に走る。

山形西高敷地内遺跡は、山形市市街地南辺、JR山形駅から南に約1kmに所在する。宅地に囲まれた山形県立山形西高等学校の敷地を中心に認められる。馬見ヶ崎川扇状地扇央部から扇端に位置し、標高約134mを測る。

#### 2 基本層序

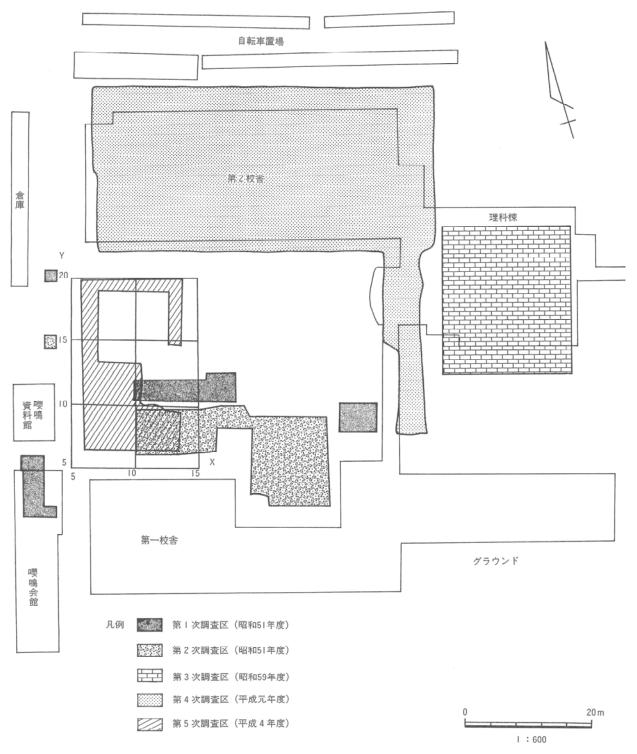
山形西高敷地内遺跡第 5 次調査における基本層序は、下記の I から VII で示すことができる。これまでの調査と比して、時代毎の分層が一部不可能であることや間層の入り方に違いが認められたため、便宜的に第 5 次調査独自の層番号を付している。土層の堆積状況は  $1 \sim 4$  次調査と基本的に同じであると理解し、第 4 次調査の層序とも対応させて表記する。 土層断面図では、明瞭な間層となっている V 層を粗砂目、基盤層を示す VII 層を縦縞、河川の堆積層を細砂目のスクリントーンで表示している(第 5 図)。

Ι	旧校舎整地層•旧工場撹乱層	第4次調査 I 層
II	旧耕作土(黒褐色粘土)	第4次調查II層
III	奈良•平安時代包含層(黒•暗褐色粘土、黒•暗褐色砂)	第4次調査V層
IV	弥生・古墳時代包含層(黒・黒褐色粘土質シルト)	第4次調査VII層
V	間層 (黒・黒褐色粘土、黒褐色砂)	第4次調査Ⅷ層
VI	縄文時代包含層(黒褐色粘土・細砂・細礫・中礫)	第4次調査IX層
VII	地山(暗褐色粘土質細砂、赤褐色砂質シルト、礫)	第4次調査X層

#### 3 遺構の分布

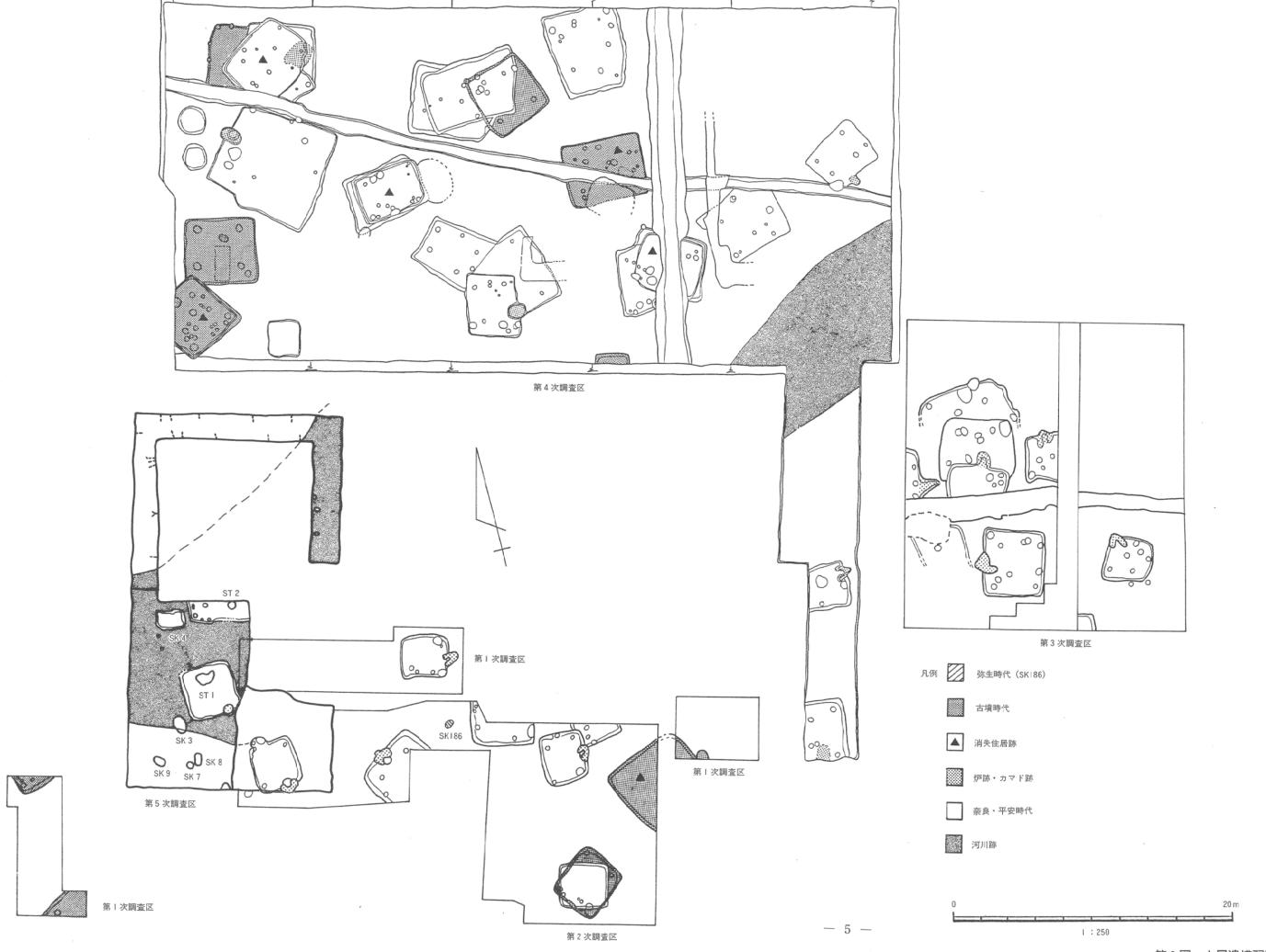
調査区全体において、工場・校舎による撹乱が激しく、I層が厚く堆積し、II・III層も部分的にしか確認することができない。撹乱層から近世の遺物が出土するため、第4次調査III層が今回の調査区にも広がっていた可能性が高い。奈良・平安時代の遺構は、III層下面で検出することができる。ST1住居跡が河川跡の堆積土を掘り込んでいること、III層が河川跡の堆積土を覆うように認められることから、奈良・平安時代には河川は流路を変えていたものと判断される。古墳・弥生時代の遺物を含むIV層は河川跡の堆積土の下位に潜り込むように堆積している。河川跡中央部に緩やかに傾斜する堆積状況を示し、今回の調査区南側には平坦面が認められず、古墳・弥生時代の遺構は検出されていない。IV層下位には、約10~40㎝の厚さで無遺物層の粗砂V層が堆積する。その状況から、河川の洪水による短期間の堆積と考えられる。この無遺物層に守られるように、縄文時代の包含層VI層が存在し、VI層下面で縄文時代中期の遺構を検出することができる。

平面的な遺構の分布も、扇状地特有の土壌形成が大きく左右しているものと考えられる。 第4・5次調査で確認されているような河川は、扇状地を縫うように数多く流れていたも

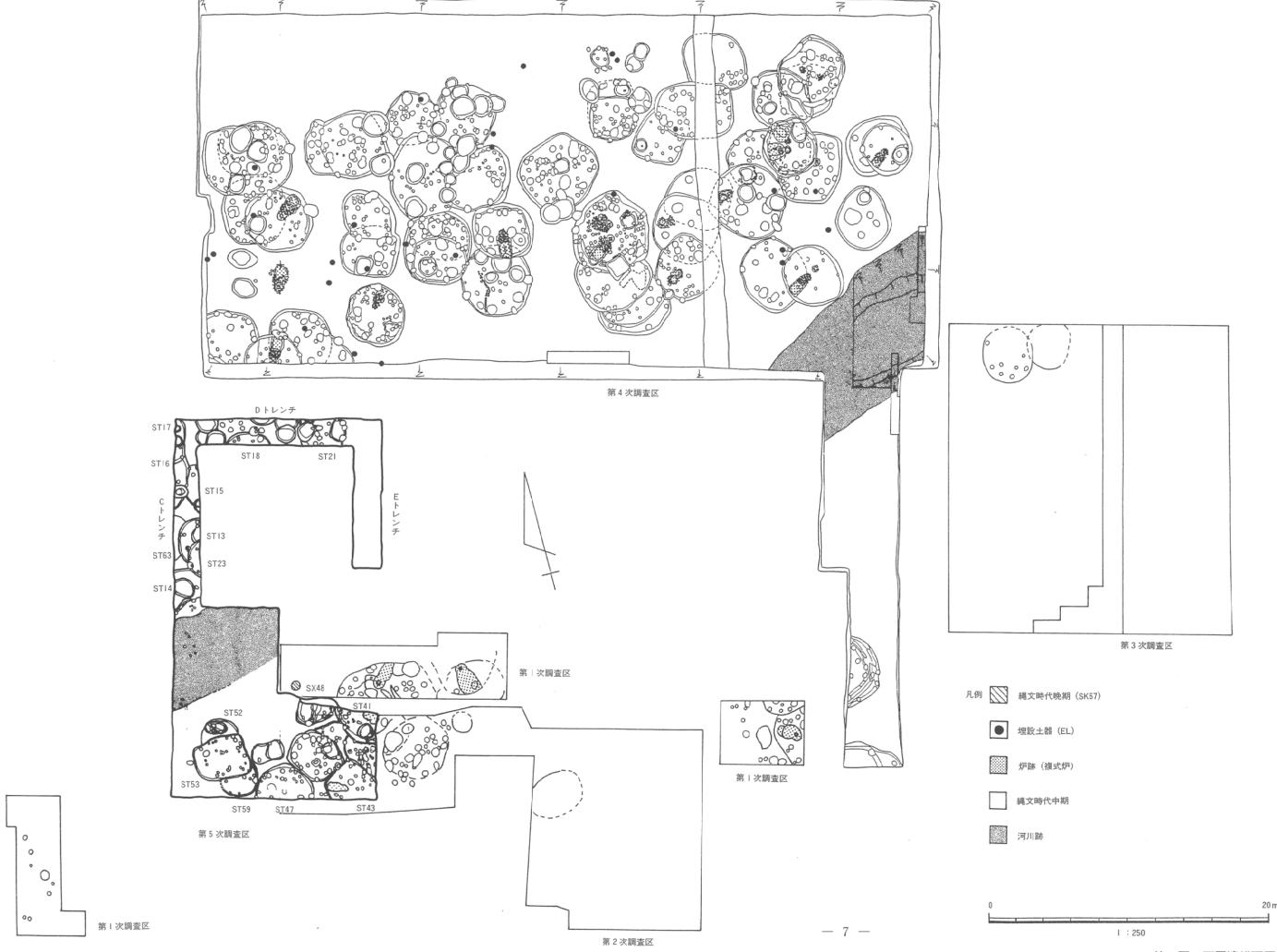


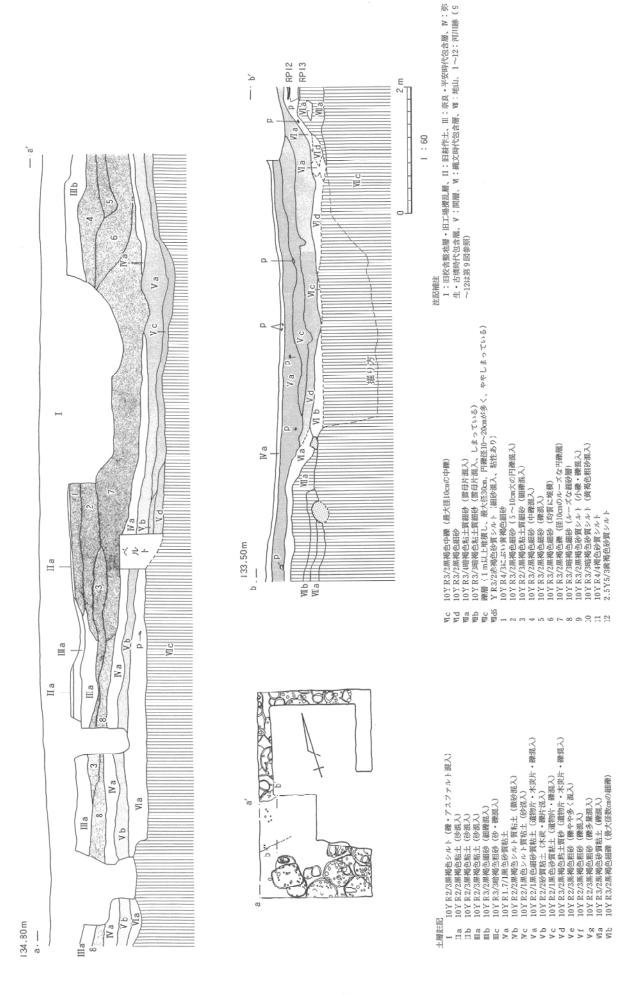
第2図 調査概要図

のと思われる。遺構は、河川をはじめとする地理的条件に規制され分布を示すと推定される。前述のとおり第 4 次調査に引き続き検出された河川跡は、奈良時代には埋没しており、古墳・弥生時代には落ち込み状の地形を示していたと観察される。河川跡には少量の縄文土器は含まれるが捨て場等に利用した痕跡は認められない。縄文時代の集落が存続した時期に、河川が流れを伴っていたのか今回の調査でも確認するに至っていない。ただし、奈良・平安時代の遺構が第  $1\sim5$  次調査区のほぼ全面で認められているのに対し、縄文時代中期の遺構は、河川跡の北側と南西部に集中し、南東部に希薄である。河川の流路の変化に規制されてのことと理解したい。



第3図 上層遺構配置図





## III 遺構と遺物

#### 1 縄文時代(第6~13図)

検出された遺構には、竪穴住居跡・土坑・埋設土器・河川跡がある。

第4次調査において、竪穴住居跡が河川跡北側に密集して検出されている。今次調査は、面的に限られているものの、河川跡の流路方向を確認することができた。さらに、竪穴住居跡が河川跡に沿うように北西側にまとまっており、第4次調査からの集落の広がりを理解することができる。各々の竪穴住居跡は2から3棟の重複を示し、第4次調査の在り方とも類似する。一方、河川跡南側では、これまでの調査で検出された遺構が少なく、判然としない部分が多かった。今次調査において、第1次調査で検出されている竪穴住居跡が重複関係を持ちつながることが分かった。集落は河川跡の両岸に広がることが推定される。

河川跡は、 $5\sim10-10\sim17$ グリッドで、長さ9.2mにわたり検出された。幅5.3m、深さ0.2m以上を測る。縄文時代包含層の黒褐色砂質粘土~中層が窪地にレンズ状に堆積する(第5図)。遺物は、少量の流れ込みが認められるのみである。8-13グリッドにおいてST14・SK58の南側の立ち上がりが、古墳・弥生時代の包含層黒褐色砂質粘土(IVa)の堆積で認められない。また、その上位には礫を混入する黒褐色細砂が堆積する。縄文時代には集落の立地を規制するように流れていた河川が、弥生時代以降、縄文時代の遺構を削り取るように流路を変えていることが読み取れる。

竪穴住居跡は、19棟検出されている。形状・規模・炉の構造・重複の在り方等、第4次調査で検出されている竪穴住居跡と類似する。土坑は12基検出されている。各竪穴住居跡・ 土坑については、観察表に記す。

埋設土器(EU16)が、8-20Gにおいて1基検出されている。北側壁面で住居跡(ST19)の覆土を確認していること、埋設土器周辺に柱穴が検出されていることから、住居に伴う可能性がある。掘り方は、径45cm、深さ36cmを測り、ほぼ正位で埋設されている土器と変わらない大きさである。第4次調査においても、埋設土器が住居跡の集中と重なるように点在し、26基確認されている。そのほとんどが、地文に縄文ないし撚糸文を施している粗製土器であったが、EU16も同様で撚糸文の施文だけである。

遺物は、土器・土製品・石器があり、遺構の覆土からの出土が主である。各遺物については観察表に譲る。土器には、深鉢形土器・浅鉢形土器・小型深鉢形土器・台付鉢形土器・小型台付鉢形土器・注口土器・壷形土器がある。ST43では、複式炉EL44の埋設部に沈線文様の縦方向展開のアルファベット文を持つ深鉢形土器(11-11)が埋設されている。複式炉石組部覆土からは文様の線描が隆帯の稜線を持ち、横方向の文様展開を示す浅鉢形土器(11-14)が出土している。さらに、ST43覆土からは、ヒレ状突起への隆帯の変遷が理解できる注口土器(11-15)が出土している。これらは、第4次調査において明らかにされた大木10式土器の古段階から新段階への変遷を裏付ける資料と理解される。土製品には、円盤状土製品・円錐状土製品(12-9)がある。石器には、打製石器として石匙(10-26、

11-23)、スクレイパー(11-17、12-24・25)、磨製石器として磨製石斧(10-8・33)、礫石器として磨石、凹石、敲石、石皿がある。

#### 2 弥生時代(第8・13図、遺物番号は13図中のものである)

弥生時代の遺構は、調査区南東で検出された落ち込み遺構(S X 48) 1 基のみである。 北側が未発掘になっているが、平面形が不整円形を呈し、大きさは東西径2.53m、南北径 1.60mを測る。覆土は6層に分かれ、3層から弥生土器片が少量出土する。当初竪穴住居 跡の可能性を考えたが、壁や床面がはっきりしないため、性格不明の落ち込みとする。

弥生時代の土器は小破片がほとんどで、全体の器形が復元できるものはない。破片からの推定であるが、確認できた土器の器種には、壷形土器・甕形土器・鉢形土器・高坏形土器の4種がある。

壷形土器は、盃状の口縁部からやや収縮する頸部を経て、胴部が丸みをもち、胴部下半に最大径を有する器形が想定される。盃状の口縁部にはミガキ(9)、頸部から胴部上半にかけては2条1描の半截竹管状工具による横線文(9・13)、渦巻文(10~12・14)、連弧文(15・17)、重三角文(16・18・23)、重菱文(26)等が施されている。甕形土器は、口頸部が長く直立するもの(2・28)と、口縁部が「く」字状に外反し胴部中位に最大径をもつもの(22)の二者がある。鉢形土器は、口縁部が外反し、頸部から胴部にかけて丸みをもつもの(5~7)と、口縁部が真っすぐに立ち上がるもの(1・3・4・24・25・27)の二者がある。明瞭な蓋形土器は認められない。高坏形土器は、脚部が1点(8)出土している。底部片が2点出土しているが、器種は20が鉢形土器、21が壷形土器と思われる。2・20の底部には布目圧痕を有する。

これらの土器群は、2条1描の半截竹管状工具による平行沈線を特徴とすることから、 東北地方南半では弥生時代中期末葉にあたる桜井式土器に併行するものである。

### 3 古墳時代 (第14図、遺物番号は第14図中のものである)

今回の調査では調査区がせまいこともあり、古墳時代の明確な遺構は検出できなかった。 古墳時代の遺物は、調査区南半を主とする第IV層および第V層の遺物包含層から、土師 器が少量出土している。

確認できた古墳時代の土師器の器種には、壺・坩・高坏・器台の4種がある。壷は、口縁部が外反し、体部が球形に膨るもので、頸部内面に粘土の折り返しによる接合が認められる(1)。3は壷の底部片である。5の坩は、内外面の体部上位に軽いくびれをもち、体部下半から底部にかけて丸味を有する、丸底の坏とも呼べるものである。摩滅が著しく、内外面の調整手法は不明である。高坏は脚部が1点出土している(4)。脚部は下方に向って大きく開くもので、裾部の屈曲はほとんどみられない。外面に丁寧なヘラミガキ調整、裾部内面にヘラナデ調整が施されている。器台は、受け部が1点出土している(2)。受け部は口縁が軽く内湾するもので、脚部との接合状況はわからないが、おそらく底に孔があくと思われる。

これらの土器群は、器形や調整技法等から、東北地方南半では古墳時代前期の塩釜式土

器の後半頃に併行するものと思われる。

#### 4 奈良・平安時代(第15~17図)

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡が壁面の観察結果で確認されたものも含めて8棟 土坑5基が検出されている。竪穴住居跡等の遺構が旧河道を掘り込んで作っていることか ら、この時期には旧河道が埋まっていたことがわかる。本節では順に遺構の概要および出 土遺物について記述する。

ST1住居跡は、調査区南西部で検出された隅丸方形の住居跡である(第15図)。大きさは東西径3.73m、南北径3.77mを測り、南東隅にカマドを有する。住居跡は旧河道の覆土を掘り込んで作られており、床面から壁上面までの深さは20~25cmある。壁の立ち上がりはなだらかで、貼床等は認められない。住居跡北側中央に径1.3m程の楕円形の落ち込み(EK6)がある。カマド(EL22)は直径20cm程の円礫を袖部の芯に利用しており、内部が赤く焼けている。煙道は認められなかった。

覆土は大きく3層に分かれ、遺物はカマド内から土師器坏(16-2)・同甕(17-5・7~9)、覆土中から土師器坏(16-1)、同甕(17-6)、須恵器坏(16-3~7)、同高台付坏(16-8)、同蓋(16-9)、同壷(17-3)、同甕(17-1・2・4)等が出土している。

須恵器の坏類は、(a) 底径が大きく、底部の切り離しが、篦切りのもの(16-3・8)、(b) 底径が大きく、底部の切り離しが糸切りの後、篦削りがなされているもの(16-4)、(c) 底径が小さく、底部の切り離しが糸切りのもの(16-5~7)に分類される。(a)・(b) と(c) は層位的に分離できない。カマドから出土した土師器甕や内面に黒色処理が施されている土師器坏からみて、本住居跡の時期は、須恵器坏(c) にあたる平安時代9世紀後半頃と推定される。

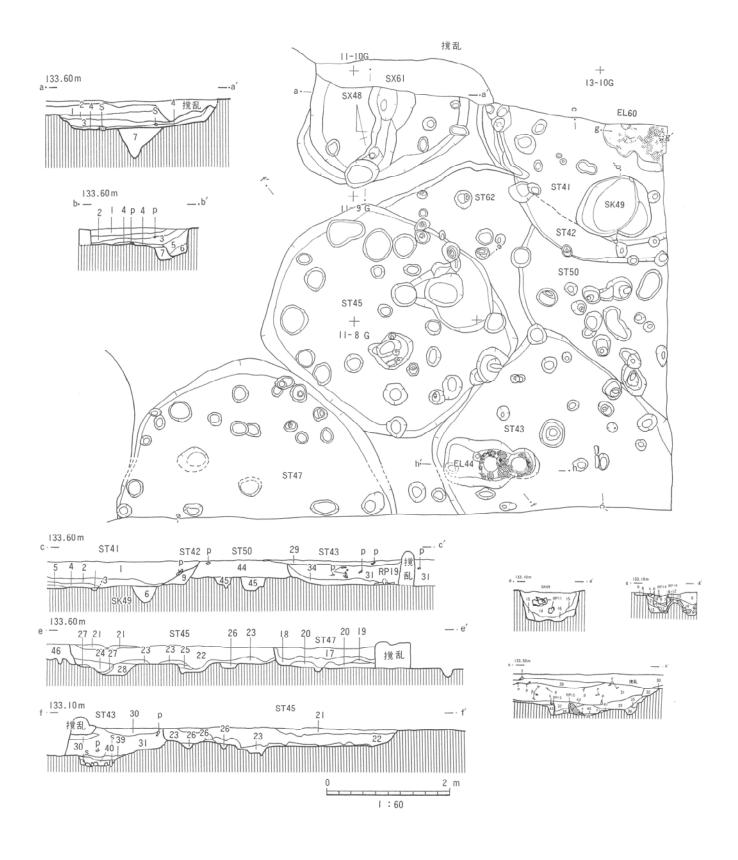
ST2住居跡は、ST1住居跡の北方3mで検出された隅丸方形の住居跡である。南半のみの検出であるが、大きさは東西4.35m、南北1.58mを測り、カマドは認められない。住居跡は旧河道の覆土を掘り込んで作られており、床面から壁上面までの深さは20~30cmある。壁の立ち上がりはなだらかで、貼床等は認められない。覆土は大きく3層に分かれるが、覆土中から遺物は出土しなかった。本住居跡の時期は不明であるが、旧河道の覆土上面に古墳時代の土器が含まれていることから、おそらく奈良・平安時代に属するものと思われる。

奈良・平安時代の住居跡は、この他トレンチ調査部分の壁面観察から、古墳時代の遺物 包含層を切った状態で最低 6 棟確認されている(ST66~70•75)。明らかな遺物の共伴は なく、詳細な時期は不明である。

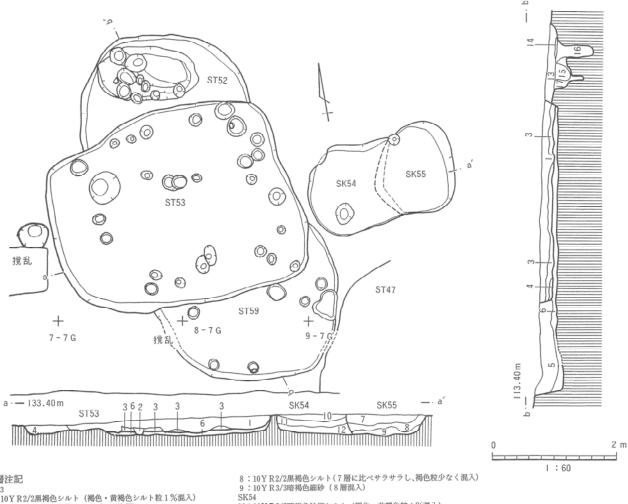
土坑は、確実なもので $SK3 \cdot 4 \cdot 7 \sim 905$ 基が検出されている。いずれもST1住居跡の周辺で確認されたものである。SK3土坑は、平面形が不整楕円形を呈し、大きさは東西86cm、南北131cmを測る。覆土は黒褐色細砂の単一層で、遺物は出土しなかった。SK4土坑は、平面形が不整の長方形を呈し、大きさは東西208cm、南北138cmを測る。覆土は二層に分かれ、遺物は出土しなかった。SK7土坑は、平面形が不整の方形を呈し、大

土層注記 52 10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト (1層に類似、1層に比べ各粒少なく混入) 平安時代 53 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (炭化粒・微砂を少量含み、粘性がある) ST65 54 10Y R3/4暗褐色砂質粘土 (炭化粒・細砂少量混入、やわらかい) 13 10 Y R2/1黒色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粒子混入、粘性ありやわらかい) 14 10Y R3/1黒褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性ありやわらかい) 15 7.5 Y R4/1褐灰色砂質粘土 (黒色粘土ブロック多量混入) 貼床 55 10 Y R 4/4褐色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粘土粒多量混入、やわらかい) 56 10 Y R2/3黒褐色砂質シルト (炭化粒・風化礫粒微量混入、粘性あり) 16 10 Y R2/2黒褐色砂質シルト(炭化粒・小礫多量混入、粘性あり) 57 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粒混入、やわらかい) 58 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (2層に類似、1層少量混入) 17 10Y R2/2黒褐色砂質シルト (1層に類似、1層に比べ炭化粒多く混入) 18 7.5Y R3/3暗褐色砂質粘土 (黒色粘土・黄褐色粘土ブロック混入) 貼床 19 7.5 Y R 3/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・小粒混入、粘性あり) 59 10Y R2/1黒色砂質シルト(微砂・黄褐色風化礫粒・炭化粒混入、粘性あり) 60 7.5Y R3/3暗褐色砂質シルト(風化礫粒・炭化粒・細砂少量混入、粘性あり) 20 10Y R2/1黒色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性あり) 61 7.5Y R4/1褐灰色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性あり) 21 7.5 Y R4/1褐灰色砂質粘土 (黒色粘土ブロック混入) 貼床 奈良時代 ST63 63 10 Y R 3/2 黒褐色砂質シルト (黄褐色風化礫粒・炭化粒多量混入、粘性あり) ST64 28 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (炭化粒微量混入、粘性あり) 29 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (炭化粒、粘性ブロック・粒混入) 64 10 Y R 3/1黒褐色砂質シルト (風化礫粒・炭化粒多量混入、粘性あり) 65 10 Y R 3/1黒褐色砂質シルト (1層に類似、風化礫粒・炭化粒が 1層に比べ少ない) 66 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、やわらかい) 29 5 Y R 4/6赤褐色砂質粘土 (焼土粒・ブロック混入) カマド 30 7.5 Y R5/6明褐色砂質粘土 カマド 67 10 Y R3/1黒褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性がありかたくしまっている) 古墳時代 ST16 ST71 38 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性あり) 68 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (黄褐色風化礫粒・炭化粒多量混入、粘性あり) 39 10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト (炭化・焼土・黄褐色粘土粒混入、粘性あり) 69 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (炭素粒を多量混入、粘性ありやわらかい) 40 10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト (2層に類似、2層に比べ各粒が多く混入) 70 7.5Y R3/4暗褐色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粒多量混入、粘性あり) 41 7.5 Y R3/3暗褐色砂質シルト(炭化粒・焼土粒・ブロック混入、粘性あり) ST15 71 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (炭化粒・風化礫粒・土器片多量混入、粘性あり) 42 7.5Y R3/3暗褐色砂質シルト (4層に類似・炭化材・焼土ブロック混入、粘性あり) 72 10 Y R 3/2 黒褐色砂質シルト (炭化粒微量混入、粘性あり) 73 10 Y R 3/4暗褐色砂質シルト (炭化粒微量混入、粘性ありやわらかい) 縄文時代 ST23 74 10 Y R 4/1褐灰色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粒多量混入) 51 10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・風化礫粒・白色粒多量混入、粘性あり)

土層注記 77 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト (炭化粒・白色風化礫粒多量混入、粘性あり堅く締まる) 平安時代 78 10 Y R2/2黒褐色砂質シルト (炭化粒微量混入、1 層に比べやわらかい) ST68 79 7.9Y R2/2黒褐色砂質シルト(2層より多く1層より少なく炭化粒混入、粘性ありやわ 22 10 Y R2/1黒色砂質シルト (炭化粒混入、粘性ありやややわらかい) 23 10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粘土粒多量混入) らかい) SK29 24 10Y R 3/3暗褐色シルト(黒色粘土・黄褐色粘土粒混入) 80 7.5 Y R3/2黒褐色砂質シルト (白色風化礫粒多量混入、粘性あり堅く締まる) 25 7.5Y R4/3褐色砂質シルト (黒褐色・黄褐色粘土ブロック多量混入、堅く踏み締めら 81 5 Y R2/2黒褐色砂質シルト (黄褐色粘土粒・風化礫粒混入、粘性あり) れ粘性あり) 貼床 EU16 ST69 83 10Y R3/3暗褐色砂質シルト (やややわらかい) 26 10 Y R 3/1 無褐色粘土質シルト (炭化粒・黄褐色シルト粒多量混入、かたい) 84 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (褐色細砂混入、粘性あり) 27 10YR3/4暗褐色シルト質粘土 (黄褐色・黒色粘土粒混入、かたい) 貼床 奈良時代 85 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト(炭化粒多量混入、やわらかい) ST70 86 10Y R3/1黒褐色砂質シルト(炭化粒多量混入、粘性があり堅く締まっている) 32 10Y R3/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・黄褐色粘土粒混入、粘性あり) 33 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (炭化粒・3 mm大黄褐色粘土粒混入、粘性あり) SK33 87 10Y R3/1黒褐色砂質シルト (炭化粒・風化礫粒多量混入、粘性あり) 34 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト(炭化粒・炭化材・焼土粒・5 mm大黄褐色粘土粒多量混 88 10Y R3/1黒褐色砂質シルト(1層に類似、1層に加え黄褐色粘土プロックを微量混入) 入、粘性あり) カマドの流れ込み 35 5 Y R 3/2暗赤褐色砂質シルト (黄褐色粘土、焼土粒・ブロック、微量の炭化材混入) SK32 89 10Y R3/3暗褐色砂質シルト (土器・炭化粒微量混入、しまっている) 90 10Y R2/3黒褐色砂質シルト (しまっている) 36 7.5 Y R2/2黒褐色砂質シルト(黄褐色・黒色粘土ブロック、焼土粒・ブロック混入、 91 10Y R3/4暗褐色砂質シルト (しまっている) 粘性あり) カマド灰出口および掘り込み 37 7.5Y R3/2黒褐色砂質シルト (黄褐色砂・黒色粘土ブロック混入、粘性あり) 貼床 SK31 92 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(炭化粒・風化礫粒多量混入、粘性あり) 古墳時代 93 10 Y R2/1黒褐色砂質シルト (1層に類似、1層に比べ炭化粒多量混入) ST72 (焼失家屋?) 43 7.5Y R2/2黒褐色砂質シルト(炭化粒・黄褐色粘土粒・焼土粒多量混入、粘性あり) ST21 94 7.5Y R2/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・白色風化礫粒微量混入、粘性あり) 44 10 Y R3/2黒褐色砂質シルト(炭化粒・材、焼土ブロック混入し粘性あり、下部に炭 95 7.5 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (1層に類似、1層に加え炭化粒・材が混入) 化材がみられる) 96 10 Y R3/3暗褐色砂質シルト (炭化粒微量混入、やわらかい) 45 10Y R3/1黒褐色砂質シルト (炭化粒・材、焼土粒、ブロック多量混入、粘性あり) 97 10Y R4/4褐色砂質シルト (炭素粒混入、粘性ありやわらかい) 46 7.5 Y R3/3暗褐色砂質シルト (黒色粘土ブロック・黄褐色砂混入、粘性あり) 98 10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト(炭化粒・黄褐色粘土粒多量混入、粘性ありやわらかい) 99 10 Y R 3/4暗褐色砂質シルト(炭化粒・黄褐色粘土粒・白色風化礫粒多量混入、粘性あ 47 7.5 Y R3/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・粘土ブロック混入、粘性あり) 48 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (炭化粒・焼土粒混入、粘性あり) りかたい) 100 10Y R4/4褐色砂質シルト (2層に比べ炭化粒多く混入) ST74 101 7.5 Y R3/4暗褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性あり非常にやわらかい) 49 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (黄褐色粘土ブロック・炭化粒混入) ST75 (焼失家屋?) 102 7.5 Y R3/2黒褐色砂質シルト(炭化粒・黄褐色粘土粒・白色風化礫粒多量混入、粘性 50 10 Y R 3/2黒褐色砂質粘土 (焼土粒・黄褐色粘土粒・炭化粒多量混入) ありやわらかい) 縄文時代 103 10 Y R 3/1 黒褐色砂質シルト (炭化粒・風化礫粒混入、粘性ありやわらかい) 104 10Y R3/3暗褐色砂質シルト (2層に類似、2層に比べ炭化粒が多く混入) 75 10Y R2/2黒褐色砂質シルト (炭化粒・風化礫粒混入、粘性あり) 105 7.5 Y R3/4暗褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性あり非常にやわらかい) 76 10 Y R3/2黒褐色砂質シルト (炭化粒多量混入、粘性あり)



```
土層注記
                                                                          20:10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (10層混入)
  1:7.5Y R2/1黒色粘土質シルト
 2:7.5YR3/2黒褐色砂質シルト(炭化粒微量混入)
3:7.5YR3/1黒褐色砂質シルト(2層に類似、2層より炭化粒多く混入)
4:7.5YR3/3暗褐色シルト質粘土(炭化粒微量混入)
                                                                          21:10Y R2/2黒褐色砂質シルト(褐色細砂 5 %、炭化粒 1 %混入し、しまっている)
                                                                         22:10Y R2/2黒褐色砂質シルト(褐色細砂・黄褐色細砂・炭化粒各5%混入し、しまっている)
23:10Y R3/3暗褐色砂質シルト(22層を霜降り状に混入する)
  5:7.5Y R4/3褐色砂質シルト (炭化粒・黄褐色シルト粒多量混入)
                                                                          24:7.5Y R2/2黒褐色砂質シルト (褐色細砂 5%、炭化粒 1%混入し、しまっている)
  6:7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土 (炭化粒多量混入)
                                                                          25:10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト (23層に類似、炭化粒 1 %混入)
                                                                          26:10 Y R 4/4褐色砂質シルト(23層をまだらに 5 %混入)
                                                                         27:10Y R3/3暗褐色砂質シルト (22層をまだらに5%混入)
28:10Y R3/3暗褐色砂質シルト (褐色シルト粒40%混入)
  7:7.5YR2/2黒褐色粘土質シルト (炭化粒微量混入)
  1:10YR2/3黒褐色砂質シルト(土器片・褐色細砂・炭化粒混入)
  2:10YR3/2黒褐色砂質シルト (褐色細砂・褐色シルト粒・炭化粒混入)
                                                                          29:10 Y R 3/2 黒褐色砂質シルト (褐色細砂微量混入)
  3:10YR2/2 黒褐色砂質シルト (褐色細砂・褐色シルト粒・炭化粒混入)
                                                                          30:10 Y R2/2黒褐色砂質シルト (2 cm大褐色細砂まだらに 5 %、炭化粒 1 %混入、しまっている)
                                                                         31:10Y R2/1黒色砂質シルト (褐色・黄褐色細砂5%、3 mm大炭化各2%、土器片混入し、粘性あり) 32:10Y R2/1黒色砂質シルト (30層まだらに混入)
  4 : 10 Y R 4/4褐色砂質シルト (3 mm大炭化粒、2 層まだらに混入)
 5 : 10 Y R 3/2暗褐色シルト (4層まだらに混入)
                                                                          33:10Y R2/2黑褐色砂質粘土
 ST41-EL60
  6:10YR2/3黒褐色砂質シルト(褐色砂質シルト粒10%までらに混入し、しまっている)
                                                                          34:10YR2/2黒褐色砂質シルト(炭化粒・褐色細砂・褐色シルト粒混入、しまっている)
                                                                          35:10YR2/2黑褐色砂質粘土(褐色細砂混入)
  7:10YR3/2黒褐色砂質シルト (粘性ありやわらかい)
  8:10YR1.7/1黒色シルト (炭化粒混入し、強い粘性、しめりがある)
                                                                          36:10YR2/2黑褐色砂質粘土(褐色細砂微量混入)
 9:10Y R2/3黒褐色砂質シルト(赤褐色シルト粒・8 層まだらに混入)
10:10Y R2/2黒褐色砂質シルト(褐色粒・炭化粒10%混入し、しまっている)
                                                                          37:10YR3/2黒褐色砂質シルト (EL60-7層に類似)
                                                                          38:10YR1.7/1黒色シルト (EL60-8層に類似)
                                                                          39:7.5Y R2/1黒色砂質シルト (5 mm大炭化粒 2 %混入)
 11:10Y R2/2黒褐色細砂 (粘性あり)
 12:10Y R4/4褐色シルト (11層微量混入)
                                                                          40:7.5 Y R2/2黒褐色砂質シルト (1 mm大炭化粒、褐色シルト粒 1 %混入)
                                                                          41:7.5Y R2/1黒色砂質シルト(褐色細砂10%混入)
  13:10YR4/4褐色細砂 (11層微量混入)
                                                                         42:10YR3/2黒褐色砂質シルト(褐色細砂40%混入)
 14:10Y R2/2黒褐色砂質シルト(土器、微量の褐色シルト粒・炭化粒混入し、しまっている)
                                                                          43:7.5Y R2/1黒色細砂シルト (褐色細砂40%混入)
 15:10YR4/4褐色砂質シルト (6層粒1%混入)
                                                                          44:10YR3/3暗褐色シルト (炭化粒・褐色シルト粒、褐色細砂混入し、しまっている)
 16:10YR3/4暗褐色砂質シルト (6層粒5%混入、しまっている)
                                                                          45:10YR3/3暗褐色シルト(44層に類似、44層より褐色細砂を多く混入)
 17:10Y R2/1黒色砂質シルト(22層に類似、22層より粘性としめりがある)
 18:7.5YR2/2黒褐色砂質シルト(黄褐色細砂 1 %混入、赤味を帯びる)
19:7.5YR2/2黒褐色砂質シルト(12層混入)
                                                                         46:10 Y R 黒褐色砂質シルト (22層に類似、22層に比べ細砂・炭化粒の混入が少ない)
```



土層注記

ST53

15153 1 : 10Y R2/2黒褐色シルト(褐色・黄褐色シルト粒 1 %混入) 2 : 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(ほぼ均質) 3 : 10Y R3/4暗褐色砂質シルト(1 層まだらに混入)

4 : 10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト(黄褐色シルト粒 1 %、6 層まだらに混入) ST59

5:10Y R2/2黒褐色砂質シルト(1層に類似、1層に比べ各粒5%と多 く混入)

6:10 Y R3/4暗褐色砂質シルト

SK55

7:10Y R2/2黒褐色砂質シルト (褐色シルト粒 5 %混入)

10:10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト(褐色・黄褐色粒 1 %混入) 11:10 Y R 3/2黒褐色砂質シルト(褐色粒 1 %混入) 12:10 Y R 3/3暗褐色砂質シルト(11層混入)

13:10Y R2/2黒褐色砂質シルト(1層に類似、1層に比べ各粒10%と多く混入)

14:10YR4/4褐色砂質シルト (16層混入) 15:10YR2/2黒褐色砂質シルト (黄褐色粒 1 %混入)

16:10Y R2/1黒色砂質シルト (均質)

17:10Y R2/3黒褐色砂質シルト (9 層混入)

第9回 ST52·53·59、SK54·55平面図

きさは東西52cm、南北52cmを測る。覆土は二層に分かれるが、遺物は出土しなかった。S K8土坑は、平面形が不整の長方形を呈し、大きさは東西51cm、南北91cmを測る。覆土は 黒褐色シルトの単一層で、遺物は出土しなかった。

土坑の時期は、旧河道の覆土を掘り込んで作られていることから奈良・平安時代以降に 属するものと思われるが、遺物の出土がなく、詳細は不明である。

#### 縄文時代土坑観察表 表 1

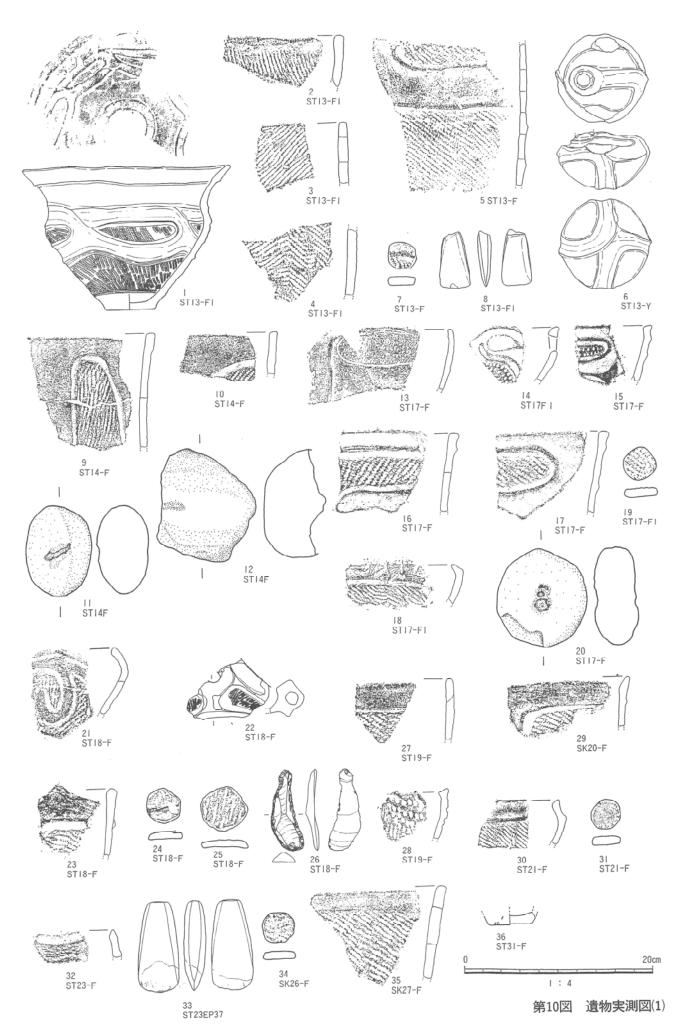
-401 CT-20	りかいりょう					
遺構番号	挿図番号	位 置	平面形	規 模 cm	深 さ cm	重複関係
SK24	6	8 • 9-16 • 17G	円形?	径120	16	SK24→ST13→ST23
SK26	7	6 • 7-20G	楕円形	158×100以上	43	SK29→SK26→SK27
SK27	7	7-20G	楕円形	142×94以上	26	同上
SK29	7	6 • 7-20G	楕円形	157×100以上	34	同上
SK31	7	9 • 10-20G	楕円形	174×48以上	34	SK31→32
SK32	7	9 • 10-20G	楕円形	143×126	31	同上
SK33	7	8 • 9-20G	楕円形	164×60以上	34	
SK49	8	12 • 13-9 • 10G	不整形	120×90	48	SK49→ST41
SK54	9	9-8 • 9G	楕円形	142×120以上	28	SK55→SK54
SK55	9	9 • 10-8 • 9G	楕円形	144×126	30	同上
SK57	6	8-14 • 15G	楕円形	130×150以上	37	SK57→ST14?
SK58	6	8 • 9-13 • 14G	不明	135以上×180以上	35以上	SK58→ST14?

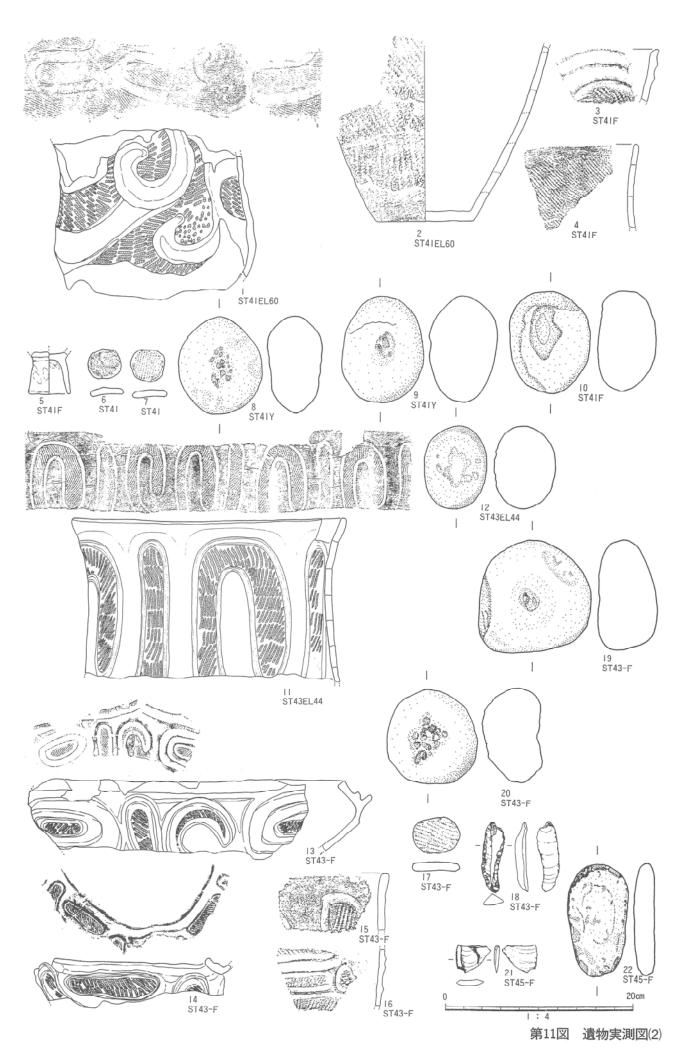
# 表 2 縄文時代住居跡観察表

遺構番号	ST13	ST14	ST15	ST16	ST17	ST18	ST19
挿図番号	6	6	6	6	6	7	7
図版番号	14					15	
位 置	8-15∼17G	8-14∼15G	8-17∼19G	8-17∼19G	8-19∼20G	8∼9-20G	8∼9-20G
形状・規模	隅丸方形、1/3検出	不明、1/3検出	不明、1/3検出	不明、1/3検出	不明、1/3検出	隅丸方形?、1/4検出	不明、断面で覆土確認
壁	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	不明
床	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い
炉・周溝	炉不明、周溝無し	炉不明、周溝無し	炉不明、周溝無し	炉不明、周溝無し	炉不明、周溝無し	炉不明、周溝無し	不明
柱 穴	5 基検出	3 基検出	3基検出	2基検出	4基検出	6基検出	4 基検出
遺物	10-1~8	10-9~12			10-13~20	10-21~25	10-26~28
時 期	大木10式期II段階						
重複関係	SK24→ST13→ ST23 ST63→ST13	SK57→ST14→ ST23 SK58→ST14	ST15→ST16	ST15→ST16→ ST17			ST19→SK26 ST19→SK33
備考							

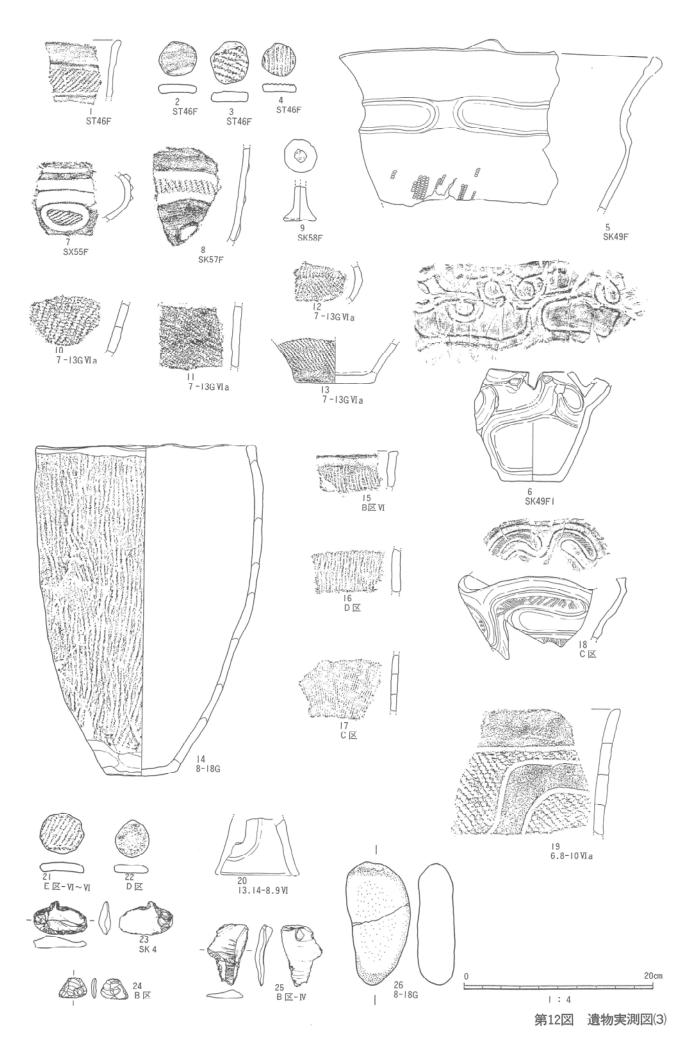
遺構番	号	ST21	ST23	ST41	ST42	ST43	ST45	ST47
挿図番	号	7	6	8	8	8	8	8
図版番	:号	15		12	12	13	13	13
位	置	10~12-20G	8-15~16G	12 • 13-9 • 10G	12 • 13-9 • 10G	11~13-7 • 8G	10∼12-8 • 9 G	9~11-7 ⋅ 8G
形状・規	見模	円形?、1/2検出	円形?、1/2検出	円形?、1/4検出	円形?、1/4検出	隅丸方形、東西3. 30×南北3.50m以上	隅丸方形、東西3. 40×南北3.15m	円形、1/2検出、径4. 4m
壁		緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	緩やかに掘込む
床		平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	不明	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い	平坦でやや硬い
炉		不明	不明	石組複式炉 EL60 主軸方位 N·70° -w 土器埋設部 深鉢 (11-2) 1 個体正位 埋設、礫抜き取り痕 検出 石組部 円形石組、 立石不明 前庭部 2次 調査 ST92で検出、馬蹄形 に広がる 北西一部検出、幅 15~20cm 深さ 10~15cm	不明	石組複式炉 EL44 主軸方位 N·75°-E 土器埋設部 深鉢 (11-11)下半欠損1 個体正位埋設、部分 的に石囲検出 石組部 円形石組、 五石状礫あり 前庭部 方形に広が る、柱穴 2 基検出	東辺に礫抜き取り痕 検出、複式炉を想定	不明
周	消	15基検出	無し	無し	無し	無し	無し	無し
柱	穴	10-30 • 31	4 基検出	7 基検出	不明	16基検出	26基検出	22基検出
道 :	物		10-32 • 33	11-1~10		11-11~21	11-22 • 23	
時	期			新		古 .		
重複関係			SK24→ST13→ ST23 ST14→ST23	ST62→ST50→ ST42→ST41 SK49→ST41	ST62→ST50→ ST42→ST41	ST62→ST50→ ST43→ST45→ ST47	ST62→ST50→ ST43→ST45→ ST47	左記に同じ
備 :		EK20・36を伴う。複 式炉の礫抜き取り 痕?		2次調査ST92の南西 部分と考えられる。				

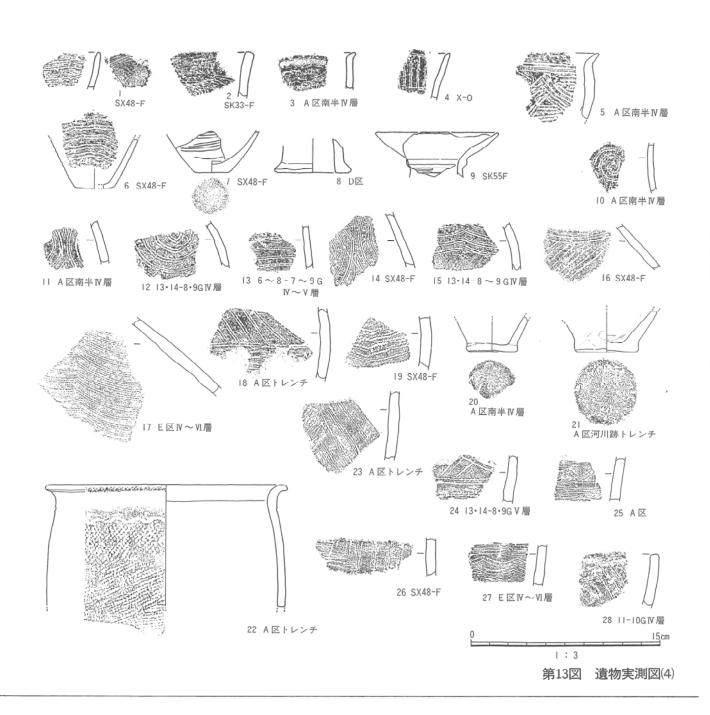
遺構番号	ST50	ST52	ST53	ST59	ST62
挿図番号	8	9	9	9	8
図版番号	12		14	14	
位 置	12 • 13-8 • 9 G	7 • 8-9G	7 • 8-8 • 9G	7~9-7 • 8G	11 · 12-8 · 9 G
形状・規模	不明、1/2検出	円形、1/2検出、径2. 84m	隅丸方形、東西3. 88×南北3.16m	円形、1/2検出、径2. 84m	不明
壁		緩やかに掘込む	緩やかに掘込む	やや垂直に掘込む	やや垂直に掘込む
床		平坦でやわらかい	平坦でやわらかい	平坦でやわらかい	平坦でやや硬い
炉		不明、北側土坑は礫 抜き取り痕の可能性 あり	不明	不明	不明
周 溝		無し	無し	無し	無し
柱 穴		不明	28基検出	8 基検出	6 基検出
遺 物					
時 期					
重複関係	左記に同じ	ST52→ST53	ST52→ST53 ST59→ST53	ST59→ST53	ST62→ST50→ ST42→ST41 ST62→ST50→ ST43→ST45→ ST47
備考					

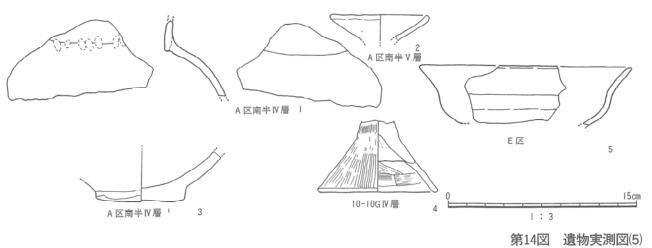


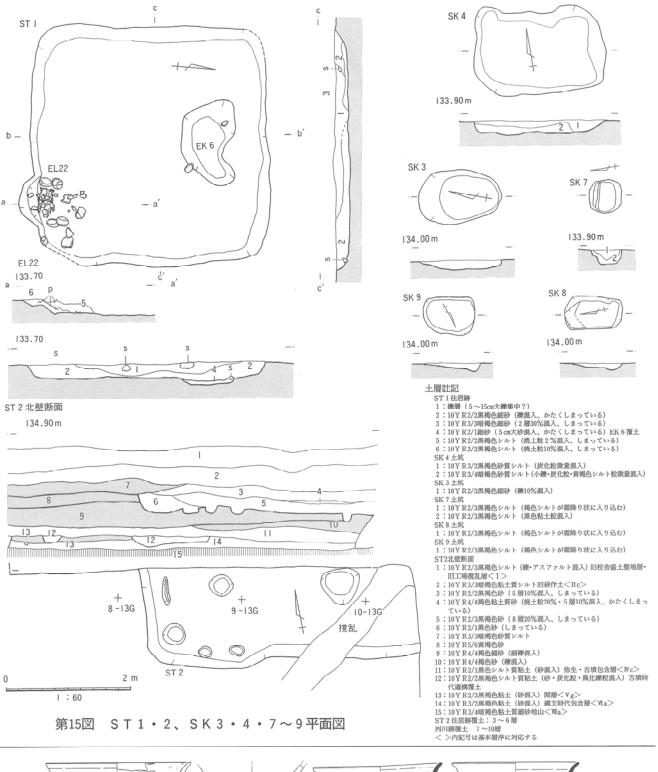


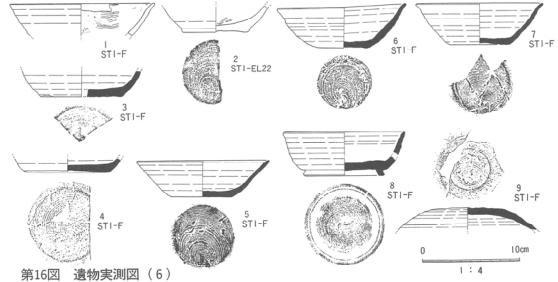
— 22 —

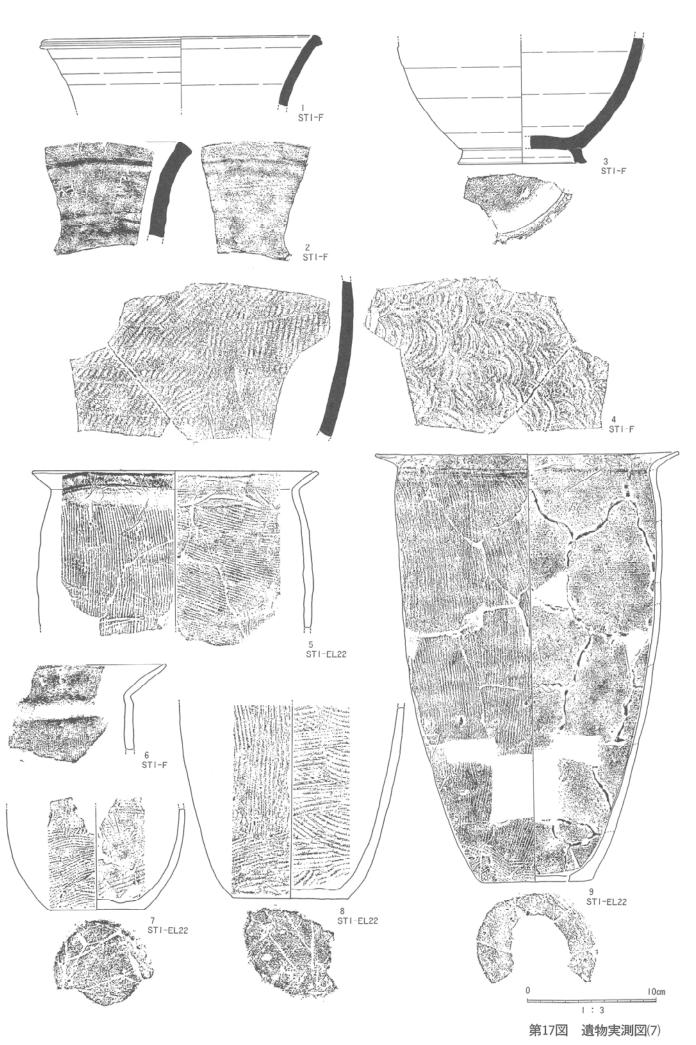












— 26 —

### 表 3 遺物観察表

表3	125	LION EN	祭表								
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土位置	種 別	器種	分類	胎土特徵	外 面	内 面	法量 mm・g	備考
10	1	17	ST13-F1	縄文土器	深鉢	B2		雁又文6単位、地文縄文斜位方向施文、底部縁辺沈線区画磨消文、底部縁辺沈線区画磨消节 文、磨消帯両側線隆起、磨消帯 丁寧な研磨、底部研磨、2/3下半 黒色変化・炭化物付着	研磨調整、2/3下半黒色変化•炭化物付着	口径(219) 底径 52.5 器高140.2	RP5 ヒレ状で古い
10	2	18	ST13-F1		深鉢	D		右巻R撚糸文	研磨調整		
10	3	18	ST13-F1		深鉢	D		RL施文	研磨調整		粗製
10	5	18 17	ST13-F1 ST13-F	縄文土器	深鉢	D A2	石英粒多	羽状縄文LR·RL?施文 雁又文?磨消帯側線隆起、地文	研磨調整 研磨調整		RP4
10	6	16	ST13-Y	縄文土器	注口土器	PAG.	量	RL施文 隆帯が文様の主体、隆帯の両側	训后闸巡	最大径98	注口部欠損
			omio D	L AMI ET	rejendo i dulci			ヒレ状に一部張り出す、1対の 作り出し崩落痕あり		III tuloo keituloe	
10	7	20	ST13-F	土製品	円盤状土製品			稜線、LR施文		長軸28 短軸27 厚9 重量8.52	
10	9	16	ST14-F	縄文土器	深鉢	A1		沈線区画、LR施文充填	研磨調整		
10	10	16	ST14-F ST17-F	縄文土器	深鉢	A1 C2	海綿骨針	太い沈線、LR施文充填 微隆起を伴う沈線区画、爪形状	研磨調整 研磨調整、炭化物付着		沈線口縁部か
10	14	18	ST17-F1	縄文土器	鉢	C1b	17411721	烈点文充塡、丁寧な研磨 磨消帯側線が隆起、爪形状烈点	(漆?)		ら始まる 後期的様相
10	15	10	COLO D	681-te 1.00	298 A4-	A 1		文、横走する玉抱文?	ZII 66年 38日 命少		口唇部外傾
10	15 16	18	ST17-F ST17-F	縄文土器	深鉢	A1 A2		稜線区画、爪形烈点文充塡 横走する雁又文?磨消帯側線隆	研磨調整 研磨調整		口唇部平坦で
10	17	17	ST17-F	縄文土器	深鉢	A2		起、LR(前々段多条3本) アルファベット文、稜線区画、	研磨調整		丸みを持つ
10	18	18	ST17-F1		浅鉢	В		RL施文の充塡 沈線区画、LL施文(反撚)、炭化	研磨調整、炭化物付着		
10	19	20	ST17-F1	土製品	円盤状土製品			物付着 RL施文		長軸35 短軸32	
10	21	16	ST18-F	縄文土器	浅鉢	A		アルファベット文、口唇部直下 沈線区画、縄文施文の充塡		厚 9 重12.25	波状縁
10	22	16	ST18-F	縄文土器	注口土器			祝緑区画、縄又旭又の元県 稜線区画、縦位把手状の張り出 し、LR施文、磨消帯朱塗り			
10	23	16	ST18-F	縄文土器	深鉢	D1b		稜線一部沈線状、縄文施文充填	研磨調整、口唇部および内面の一部に炭化物 付着		波状縁
10	24	20	ST18-F	土製品	円盤状土製品			稜線、縄文施文		長軸36 短軸32 厚 8 重10.94	
10	25	20	ST18-F	土製品	円盤状土製品			RL施文		長軸48 短軸45 厚 8 重18.09	
10	27	17	ST19-F	縄文土器	深鉢	A1		沈線区画、RL施文充填	研磨調整		突起状口縁
10	28	18 16	ST19-F SK20-F	縄文土器	深鉢	Cla		刺突文(棒状工具)、縄文施文 沈線を伴う稜線、一部ヒレ状、 縄文充塡	<b>州居副</b> 並		大尺八口称
10 10	30	18 20	ST21-F ST21-F	縄文土器 土製品	鉢 円盤状土製品	Cla		稜線区画、LR施文 磨消帯	研磨調整、炭化物付着	長軸32 短軸28	
10	32	18	ST23-F	縄文土器	深鉢	Cla		稜線区画、爪形烈点文	研磨調整	厚9 重10.42	
10	34	20	SK26-F	土製品	円盤状土製品	Cia		沈線•縄文施文	19 F PLU N°9-MG	長軸34 短軸33 厚 8 重10.81	
10	35	18	SK27-F	縄文土器	深鉢	A		LR施文	研磨調整		粗製
10	36	18	ST31-F	縄文土器	小型深鉢			RL施文	0/0天平田存款化 /対	底径32	RP14
11	1	17	ST41 EL60	縄文土器	深鉢	A3		横走する波濤文、ヒレ状突起に 刺突文が伴う、磨消帯両側線殻 隆起および沈線区画、地文LR施 文、下半部縦方向施文、区画内 充填、2/3下半黒色変化(被熱)	2/3下半黒色変化(被 熱)	最大径(201)	縦方向に文様 展開、観音堂に 類似
11	2	18	ST41 EL60	縄文土器	深鉢			地文縄文施文、底縁部研磨調整、 被熱	研磨調整、一部黒色の 汚れ、被熱	底径105	RP14
11	3	16	ST41-F	縄文土器	深鉢	A		稜線区画、LR施文	研磨調整		波状縁
11	4	18	ST41-F	縄文土器	深鉢	A		LR施文、口唇部研磨	研磨調整	底径28	
11	5	18	ST41-F	縄文土器 土製品	小型台付鉢 円盤状土製品	-	-	指頭痕 隆線		低径28 長軸35 短軸30	
11	6	20	ST41-F		円盤状土製品			左卷R撚糸文		厚 6 重8.53 長軸36 短軸32	
11	7	20	ST41-F	土製品	深鉢	A		沈線区画。アルファベット文、	2/3下半赤色変化	厚8 重9.47 口径291	口唇部平坦
1.1	11	10	EL44	#6X_1181	PROT			LR施文充填、磨消部丁寧な研 磨、2/3下半赤色変化		(71 (000)	RP15
11	13	16	ST43-F	縄文土器	浅鉢	В		稜線区画窓状・アルファベット 文、一部ヒレ状に張り出す、LR 施文充填、口縁部ナデ明瞭、炭 化物付着	研磨調整	口径(333)	古~中
11	14	16	ST43-F	縄文土器	注口土器			稜線区画窓状、一部ヒレ状に張 り出す、LR・RL単節縄文施文充 塡、口縁部ナデ明瞭、炭化物付 着	研磨調整、炭化物付着	口径162	ヒレ状突起の 隆帯変遷 大木9の退化 したもの
11	15	16	ST43-F	縄文土器	深鉢	A		沈線区画、アルファベット文、 LR施文充塡	研磨調整		口唇部平坦
11	16	18	ST43-F	縄文土器	深鉢	A		磨消帯両側線隆起、磨消帯丁寧 な研磨、爪形烈点文充塡、LR施 文充塡			
11	17	20	ST43-F	土製品	円盤状土製品					長軸38.5 短軸 50 厚 9 重21.12	
12	1	17	ST46-F	縄文土器	深鉢	A		稜線区画、LR施文の充塡、赤色 変化	研磨調整		
12	2	20	ST46-F	土製品	円盤状土製品			磨消帯·稜線		長軸39 短軸36 厚 9 重17.06	
12	3	20	ST46-F	土製品	円盤状土製品			LR施文		長軸42.5 短軸 40 厚11 重24.96	
		20	ST46-F	土製品	円盤状土製品			右巻R撚糸文	-	量24.96 長軸35 短軸34	

挿図	遺物	図版	出土位置	種別	器和	25.899	胎土特徴	bl co	rin on	}t: ₩	Ath =	84.
番号	番号	番号	SK49F	(理 カ) 縄文土器	深鉢	分類 B2b	加工付取	外 面 □縁部から頸部磨消無文帯、頸	内 面	法量 mm*g	備 # RP11	<b></b>
12	.,	17	31(451)	和4.人	(本)	BZD		部に稜線区画磨消帯横走、地文縄文、口縁部小突起	1月月音 前町 300	口生(342)	Krii	
12	6	16	SK49-F1	縄文土器	注口土器			玉抱き文の変形あり、文様の端 部ヒレ状、稜線区画磨消帯横走	研磨調整	口径87 器高115 底径64	RP11	
								全体にまだらの黒色変化、横位 把手痕2ヵ所、縦位把手痕1ヵ		7.2.4.2.2		
			OVERE D	400-1- 1 nn	ND AL			所	ward other store stell.			
12	7	16	SX55-F	縄文土器	浅鉢			稜線区画窓状、RL(前々段多条   4 本) 施文充塡	研磨調整			
12	8-	16	SK57-F	縄文土器	深鉢	. m		稜線区画、縄文施文充塡		wheter a c		
12	9	18 18	SK58-F 7-13GIVa	土製品	円錐状土製 深鉢	hà		地文RL施文	研磨調整	底径22	RP12 粗§	fg!
12	11	18	7-13GVIa	縄文土器	深鉢			地文縄文施文	研磨調整		RP12 粗	
12	12	18 18	7-13GVIa	縄文土器	浅鉢	_		左巻R撚糸文?	研磨調整 出化物分数	etror o	RP12	
12	13	18	7-13GVIa 8-18G	縄文土器	深鉢	C2		地文LR施文、炭化物付着 右巻L撚糸文、口唇部直下部分	研磨調整、炭化物付着 研磨調整	底径84 口径(234)	RP12 RP16	
								的磨消あり、底辺部研磨調整		器高351 底径76	口唇部やり傾	や外
12	15	18	B⊠VI	縄文土器	深鉢	D		地文左卷R燃糸文	研磨調整	PENELTO	粗製	
12	16	18	D区	縄文土器	深鉢			地文右巻R撚糸文	研磨調整		粗製	
12	17	16	CE CE	縄文土器	深鉢 鉢			地文右巻R燃糸文 波頭文、稜線 (断面三角丁寧な	研磨調整 研磨調整	口径(177)	波状縁 4 単	位
				#G/C11111				研磨)区画、地文·充填LR施文	WINE HOLE	нд(111)	口唇部や	
12	19	17	6•8-10G	縄文土器	深鉢	A		雁股文?磨消帯沈線区画丁寧な 研磨、地文LR施文(条間5mm太	ナデ		口唇部外傾	į
12	20	17	13•14-	縄文土器	台付鉢	-		めの原体) 4つ楕円状?の窓、窓を囲む磨	ナデ	底径(90)		
			8•9IV			-		消帯あり	, ,			
12	21	20	E区 IV-VI	土製品	円盤状土製	di		RL施文		長さ41 幅46 重 量20.95		
12	22	20	D区	土製品	円盤状土製	品		磨消帯		長さ39.5 幅36 重量12.28		
13	1	20	SX48F	弥生土器	鉢		精良	横走波状沈線文(2条1描 半 截竹管状工具)4段以上	横走波状文(2条1描 半截竹管状工具)1段	無無12.20		
13	2	20	SK33F	弥生土器	甕		粗	平行線間3.0mm 斜走平行沈線文(2条1描 半 載竹管状工具)	平行線間3.0mm ナデ			
10			1 EZ M	36-41-1-100	0.1-		den a second	平行線間1.5㎜浅く不明瞭				
13	3	20	A区南半 IV層	弥生土器	鉢		粗15-2に 類似	横走波状沈線文(2条1描 半 截竹管状工具)2段以上 平行線間2.0mm				
13	4	20	Х-О	弥生土器	鉢		良	口唇部直下およびくびれ部横走				_
								平行沈線文1段その間に縦走平 行沈線文(2条1描 半裁竹管 状工具) 平行線間1.0mm				
13	5	20	A区南半 IV層	弥生土器	鉢		良	くびれ部横走平行沈線文1段、 体部重山形文縦走平行沈線文 (3条1描 櫛状工具) 平行線間1.0~1.5mm			口唇部外反	
13	6	20	SX48F	弥生土器	鉢		良	横走緩下湾連就沈線文(2条1 描 半截竹管状工具)5段以上 平行線間2.0mm		底径(31.5)		
13	7	20	SX48F	弥生土器	鉢		良	横走下湾連弧沈線文? (2条1		底径28.5	磨滅激しい	
								描 半截竹管状工具) 4 段以上 平行線間2.0mm				
13	8	_	D区		高杯		粗	Ideal Adv. L. Co. de a Ideal C. Contra		底径61.5		
13	9	20	SK55F	弥生土器	壺			横沈線文(2条1描半 竹管状 工具)、頸部に段を有す	,	口径(97.5)		
13	10	20	A区南半	弥生土器	壺	_	良	平行線間1.5mm 口縁部ミガキ 渦巻文(2条1描半 竹管状工				
10	1	20	IV層	34-15-15 par	H.F.		, and	具) 平行線間1.5mm				
13	11	20	A区南半	弥生土器	壺		良	渦巻文(2条1描半 竹管状工				
			IV層					具) 平行線間1.5mm				
13	12	20	13•14-8• 9GIV層	弥生土器	壺		良	渦巻文(2条1描半 竹管状工 具)				
13	13	20	6~8-7~9	弥生土器	壺		ė	平行線間1.5mm 機線文 (2.8.1 世半 放祭社工				
10	10	20	G IV∼V	小工工而	SE		良	横線文(2条1描半 竹管状工具)				
13	14	20	層 SX48F	弥生土器	壺	-	良	平行線間1.0mm 渦巻文(2条1描半 竹管状工				
			3.2.101	- Tanka Mili	-44		^	具) 平行線間1.0mm		,		
13	15	20	13*14- 8~9IV層	弥生土器	莖		良	下湾連弧文(2条1描半 竹管 状工具)4段以上				
13	16	20	SX48F	弥生土器	186		\$172	平行線問1.5mm				
13	16	-20	5A48F	<b>沙生土器</b>	壺		粗	横走平行文1段以上、その下位 毎三角文(2条1描半 竹管				
								状工具) 平行線間3.0mm				
13	17	20	E区IV~ VI層	弥生土器	委		良	下湾連弧文(2条1描半 竹管 状工具)13段以上 平行線間1.0mm				
13	18	20	A区トレ	弥生土器	壺		良	構ま平行文 その上位に重三角				
			ンチ					文(2条1描半 竹管状工具) 平行線間1.0mm				
13	19	_	SX48F		壺		良	附加縄文				
13	20	20	A区南半 IV層	弥生土器	鉢		良	底部布目圧痕 ナデ		底径(40.5)	底部上げ底	
13	21	20	A区旧河 トレンチ	弥生土器	壺		良	底部布目圧痕 底縁部指頭痕 ナデ	ナデ	底径49.5	底部上げ底	_
			IV層					/ /				

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土位置	種 別	器種	分類	胎土特徴	外 面	内 面	法量 mm·g	備考
13	22	20	A区トレ ンチ	弥生土器	甕			ロ唇部縄文施文、頸部直下に結 節綾絡文LR文斜位施文(条間2. 5cm幅)、地文深縄文施文		口径(189)	口唇部外反
13	23	20	A区トレ ンチ	弥生土器	壺		良	重三角沈線文(2条1描半 竹管状工具) 平行線間2.0mm			
15	24	20	13•14-3• 9GV層	弥生土器	鉢		良	横走平行沈線文2段以上、その 上位に重三角沈線文(2条1描 半 竹管状工具) 平行線間2.5mm			口縁部(口唇部 欠損)
13	25	20	A区	弥生土器	鉢		精良	横走平行文または重方形文その間に重三角文(2条1描半 竹管状工具) 平行線間2.0mm			
13	26	20	SX48F	弥生土器	壺		良	重三角文または菱形文(2条1 描半 竹管状工具) 平行線問2.0mm			
13	27	20	E区IV~ VI層	弥生土器	鉢		良	横走平行文 2 段以上、その下位 に下湾連弧文 (2条1描半 竹 管状工具) 平行線間 2.0mm			
13	28	20	11-10G IV層	弥生土器	甕		粗	斜走平行文 (2条1描 半裁竹 管状工具) 平行線間1.0~1.5mm			
14	1	20	A区南半 IV層	土師器	壺		粗	磨滅している	頸部折り返し接合痕、		
14	2	20	A区南半 V層	土師器	器台(受け部)		良	磨滅している		口径7.9	
14	3	20	A区南半 VI層	土節器	壺		粗			底径6.9	底部籾痕2ヵ 所
14	4	20	10-10G IV層	土師器	高坏 (脚部)		精良	ミガキ	ヘラナデ	底径9.6	
14	5	20	E区	土師器	坩		粗	ナデ	ナデ	口径(16.9)	
16	1	21	ST1F	土師器	坏		良	ロクロナデ	黒色処理・ミガキ	口径(152)	
16	2	21	ST1. EL22	土師器	坏		良	ロクロナデ・底部箆切り		底径(86)	
16	3	21	ST1-F	須恵器	坏		粗 0.3cm 大礫混入	ロクロナデ・底部箆切り	ロクロナデ	底径80	
16	4	21	ST1-F	須恵器	坏			ロクロナデ・箆削り底部糸切り	ロクロナデ	底径(70)	
16	5	21	ST1-F	須恵器	坏			ロクロナデ・底部糸切り	ロクロナデ	口径140 底径66 器高37	
16	6	21	ST1-F	須恵器	坏			ロクロナデ・底部糸切り	ロクロナデ	口径136 底径55 器高47	
16	7	21	ST1-F	須恵器	坏			ロクロナデ・底部糸切り	ロクロナデ	口径(135) 底径(64) 器高(43)	
16	8	21	ST1-F	須恵器	高台付坏			ロクロナデ・底部箆切り	ロクロナデ	底径84 器高46	
16	9	21	ST1-F	須恵器	蓋						
17	1	21	ST1-F	須恵器	塾			ロクロナデ	ロクロナデ	口径(222)	
17	2	21	ST1-F	須恵器	甕			ロクロナデ	ロクロナデ		
17	3	21	ST1-F	須恵器	壺			ロクロナデ	ロクロナデ	底径84 器高46	
17	4	21	ST1-F	須恵器	悪			タタキ	アテ		
17	5	21	ST1- EL22	土師器	差			刷毛目	刷毛目	底径84 器高46	RP8•9
17	6	21	ST1-F	上師器	瑟			刷毛目	刷毛目	口径(222)	
17	7	21	ST1- EL22	土帥器	號			刷毛目•底部木葉痕	刷毛目		RP9
17	8	21	ST1- EL22	土師器	甕			刷毛目•底部木葉痕	刷毛目	底径100	RP7
17	9	21	ST1- EL22	土師器	甕			刷毛目•底部木葉痕	刷毛目	口径(222)	RP9·底部 第 孔?

# 表 4 石器計測表

挿 図番 号	遗物番号	図版番号	器	種	出土位置	石 材	長・長軸	量(mm) 幅・短軸	厚	重 量(g)	備	考
	8	19	磨製石斧		ST13-F1	流紋岩	57.5	31	13	37.12		
10	11	19	凹石		ST14-F	安山岩	95	71	55	514	磨痕	
10	12	19	凹石		ST14-F	安山岩	147	(53)	(65)	832	磨痕	
10	20	19	凹石		ST17-F	花崗岩	96.5	95.5	43	636		
10	26	19	石匙		ST19-F	珪質頁岩	83	37	10	23.52		
10	33	19	磨製石斧		ST23-EP37	流紋岩	95	43	22	167.75	RP18	
11	8	19	凹石		ST41-Y	花崗岩	99.5	89	57	687	磨痕	
11	9	19	凹石		ST41-Y	安山岩	111	85	72	836	磨痕	
11	10	19	凹石		ST41-F	花崗岩	104	84	60	864	磨痕	
11	12	19	凹石		ST43-EL44	花崗岩	87	65	62	415	磨痕	
11	18	19	石匙		ST43-F	珪質頁岩	74	25	12	17.09		
11	19	19	凹石		ST43-EL44	安山岩	118	117	64	1268	磨痕	
11	20	19	凹石		ST43-F	安山岩	98	94.5	64	576	磨痕	
11	21	19	播器		ST45-F	珪質頁岩	(23)	37	64	6.75		
11	22	19	タタキ石		ST45-F	安山岩	114.5	65	20	224		
12	23	19	石匙		SK4-F	珪質頁岩	35.5	55.5	12	18.75	RP17	
12	24	19	スクレイパ	-	B⊠-IV	チャート?	21.5	29.5	6	4.02		
12	25	19	掻器		B⊠-IV	珪質頁岩	65	43	10	23.65		
12	26	19	磨石		8-18G	珪質頁岩	128	66	40	483	RQ20	

# IV まとめ

#### 1 遺跡の性格と年代観

今回の調査では、縄文時代・弥生時代・平安時代の遺構と遺物、古墳時代・江戸時代の遺物が出土している。今回の調査の結果、当遺跡を考える上でカギとなる河川跡の流路方向と埋没時期の大まかな特定が可能となった。第 $1\sim5$ 次の各調査区に囲まれるように中央部が未調査となり、そこを河川跡が流れていると推定される。今後の課題は各時代の遺構(集落)と河川跡との関わり方の解明である。中央の河川跡沿いの調査が待たれる。なお、今回の遺物出土箱数は22箱を数える。

#### 縄文時代

竪穴住居跡19棟、土坑12棟、埋設土器1基、河川跡が検出されている。第4次調査で検出されている河川跡が、北東から南西に流れることが分かった。その流路に規制されるように集落が営まれている。竪穴住居跡の在り方は、これまでの調査成果とほぼ一致している。遺物は、土器・土製品・石器が出土している。第4次調査の報告書において、大木10式期に属する土器を「古段階」「中段階」「新段階」の三つの時期に類型化が行われている。今回の調査では、良好な一括資料や切り合い等には恵まれていないが、前述のように複式炉埋設土器と住居跡覆土にその変遷を理解できる資料が出土している。遺構の時期は、出土土器から大木10式期の古〜新段階に収まるものと判断される。

以上、第4次調査で明らかにされている縄文時代中期末葉大木10式期の集落が、河川跡 右岸北西および左岸南西に広がっていたことを確認することができた。なお、第1次調査 では、縄文時代晩期の遺構が第5次調査区北東に隣接して検出されているが、今回の調査 ではそのつながりを確認することができなかった。

#### 弥生時代

不整形を呈する落ち込み遺構 1 基が検出されている。当該期の遺物は、ほとんどが落ち込み遺構からの出土である。第 2 次調査においては、第 5 次調査区の東側で壷形土器が横位に埋置された土坑が検出されている。壷形土器は桜井式土器に併行すると理解されている。今回の調査においても 2 条 1 描の半載竹管状工具による平行沈線を特徴とする土器片が出土している。 2 次調査検出土坑の周辺にはピット群も確認されているが、生活の場は不明であった。今回の調査においても、出土遺物が小破片であり、遺構も不明瞭のため、桜井式期併行の生活の場の解明は課題として残った。

#### 古墳時代

遺物は少量であり摩滅している。塩釜式土器併行の竪穴住居跡が、第4次調査では河川跡右岸で、第1・2次調査区では河川跡左岸で確認されている。第5次調査区においては古墳時代の包含層(IV層)が河川跡に向かって傾斜する堆積を示している。生活の場に成り得ない地形であったことが推定される。

#### 平安時代

竪穴住居跡 8 棟・土坑 5 基を検出している。縄文時代から古墳時代まで窪地状の地形を示していた上位に礫層の堆積が認められる。その礫層を掘り込んで当該期の竪穴住居が構築されており、河川の流路が平安時代以前に変わっていることを物語っている。これまでの調査で 8 世紀中葉から10世紀前葉の集落の存在が明らかにされている。住居跡はいくつかのまとまりを示しながらも、調査区のほぼ全域に認められる。

#### 江戸時代

遺構は検出されず、撹乱層から遺物(図版19)が出土している。遺物は陶器擂鉢、磁器碗・皿・蓋である。肥前系碗は三角形に作り出す高台から17世紀前半の年代が想定される。 当遺跡周辺は、最上氏時代山形城下絵図によれば「上ノ山兵部太浦下ヤシキ」周辺に当たる。少量の遺物であるが、山形城の城下町を考古学資料から解明する第一歩となる。

#### 2 山形西高敷地内遺跡の複式炉

当遺跡からは縄文時代中期末葉大木10式期の竪穴住居跡が78棟検出されている。これまで検出された複式炉は26基であるが、住居の重複による破壊等を加味すると、数はさらに増えると思われる。構造は、土器埋設部、石組部、前庭部からなり、上原型複式炉を基本とする。

複式炉は、東北地方南部を中心に縄文時代中期末葉大木9式から大木10式期に盛行する。初現は大木8b式から同9式の間とされ、縄文時代後期には再び単純小型化し地床炉・石囲炉に戻る。複式炉は、その特異な形態と共に、一気に拡大し消滅するその在り方に解明されない点が多い。当遺跡の縄文時代の集落は、複式炉の盛衰に重なるように大木10式期に収まる。限られた期間に営まれた当遺跡において、その変遷の分析は複式炉の機能や複式炉を必要とする生活の変化を理解する糸口になると考える。ここでは、大木10式期の古から新段階への変化を提示する。複式炉の時期については、埋設された土器に基づくが、転用されている可能性もあり、住居構築の時期との関連については検討の余地を残している。

古段階では、土器埋設部・石組部・前庭部が明瞭で平面形はダルマ形を呈する。石組部は丁寧な石組みが行われている。中段階になると土器埋設部と石組部が連続するようになり、前庭部が発達するものがある。この段階では丁寧な作りはまだ残されている。新段階になると石組部と前庭部の掘り込みが伴わないもの、前庭部が壁から離れ小型化しているものが出現する。石組部の残っているものは、石組とは言い難い粗雑な状況である。古から新段階の変化は、不定形化・粗雑化・小型化である。しかし、よくみると土器埋設はほとんど変化せず、法量の変わらない深鉢形土器が、住居のほぼ中央に埋設され続ける。火気を受けた痕跡は土器埋設部と石組部の一部に認められ、前庭部には全く無い。変遷から機能を理解しようとする際、次の2点が重要であると考える。①火気を用いた土器埋設部は形状と位置を変えないのに対し、石組部と前庭部、特に前庭部が姿を変えている。②大

木10式期古段階は大木9式新段階から引き続き石組部と前庭部が精緻に作られている。以 上の2点について、今後は他遺跡・他地域との比較のなかで検討して行きたい。

#### 《主な参考文献》

1974 「複式炉文化論」『福島考古』第15号 梅宮 茂

1974 「福島県における縄文時代中期の住居、集落跡研究の現状と問題点」『福島考古』第15号 丹羽

山形県教育委員会 1979 『熊ノ前遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第16集

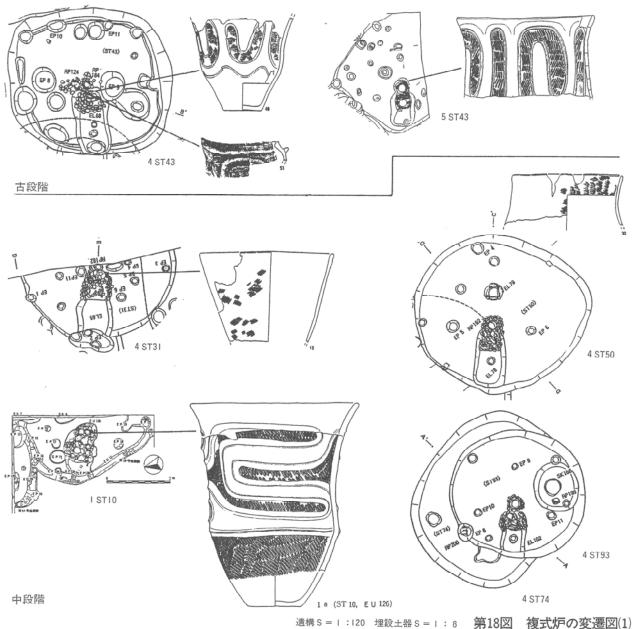
山形県教育委員会 1979 『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第17集

山形県教育委員会 1985 『山形西高敷地内遺跡第3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第91集

財団法人最上義光歴史館 1990 『山形県城郭古絵図展図録』

山形県教育委員会 1992 『山形西高敷地内遺跡第4次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第173集

山形県教育委員会 1992 『山形西高敷地内遺跡第5次調査説明資料』



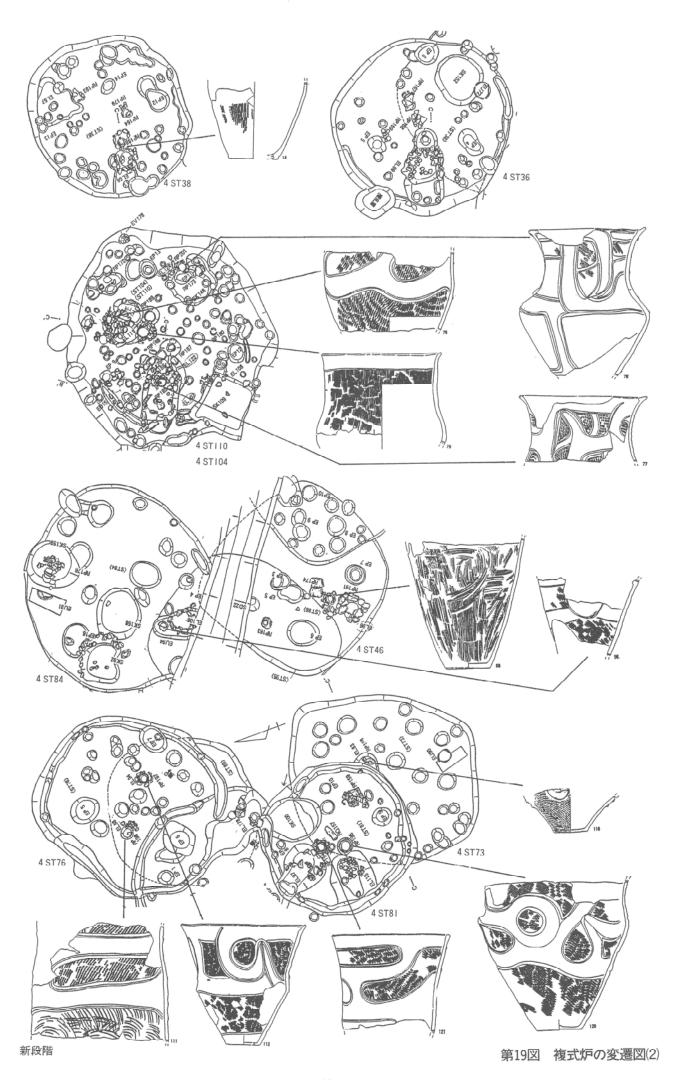
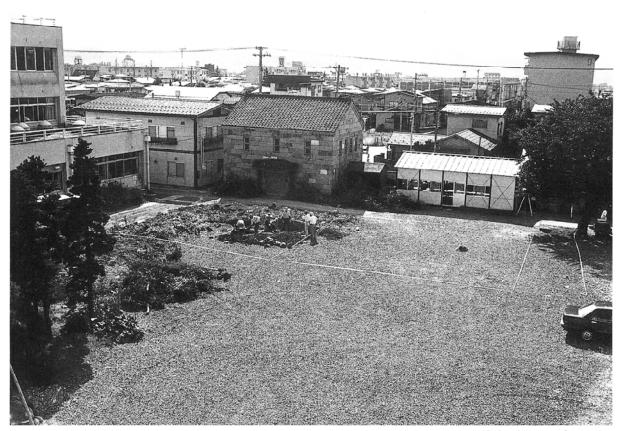


図 版



調査区全景(東から)



下面完掘状況(南東から)



鍬入式風景



トレンチ調査作業状況



表土除去実施状況



C 区調査状況(南から)



上面調査状況(南西から)



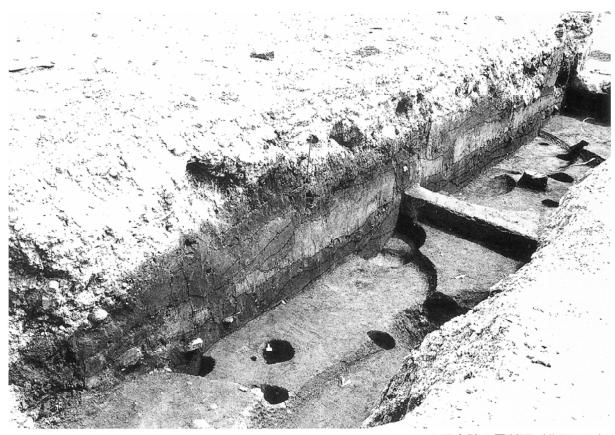
基本層序 ST2北壁部分(南西から)



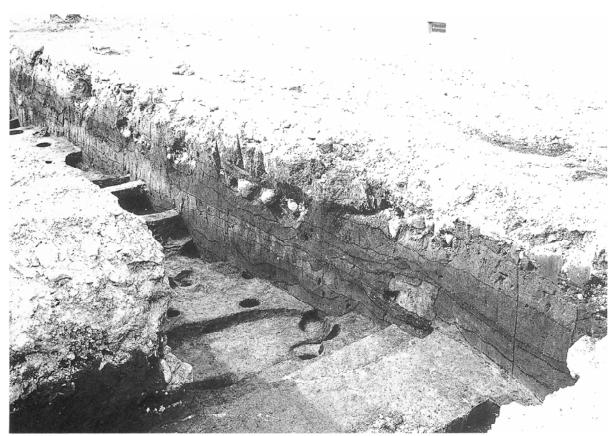
基本層序 a-a'・b-b'部分(北東から)



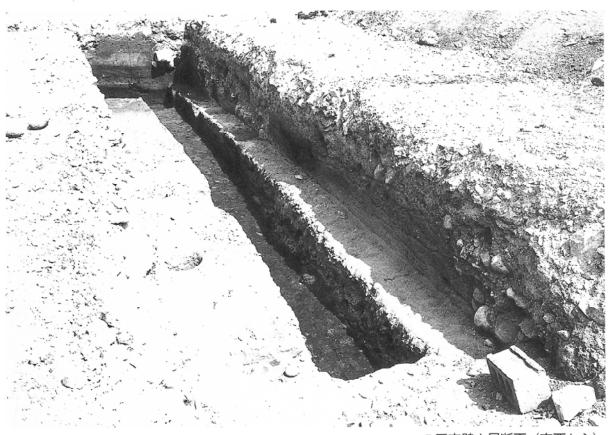
C区西壁土層断面(北東から)



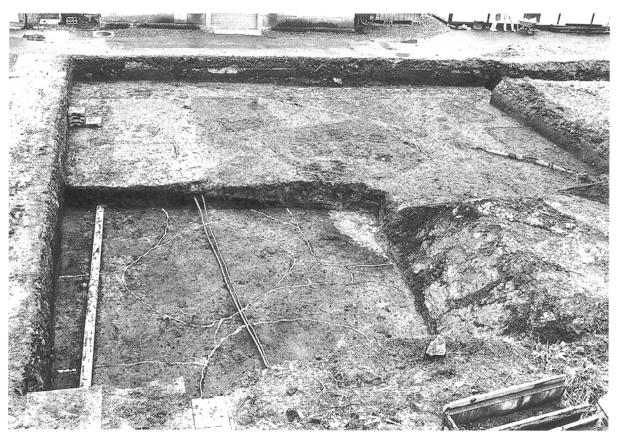
C 区東壁土層断面(北西から)



D区北壁土層断面(南東から)



E 区東壁土層断面(南西から)



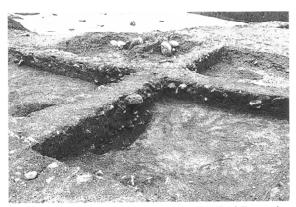
A区下層・B区上層遺構検出状況(東から)



B区上層遺構完掘状況(南から)



ST1住居跡完掘状況(北から)



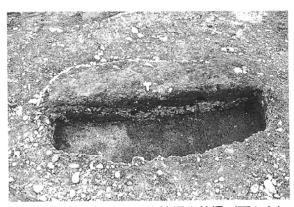
ST1住居跡埋土状況(北から)



EL22カマド完掘状況(北から)



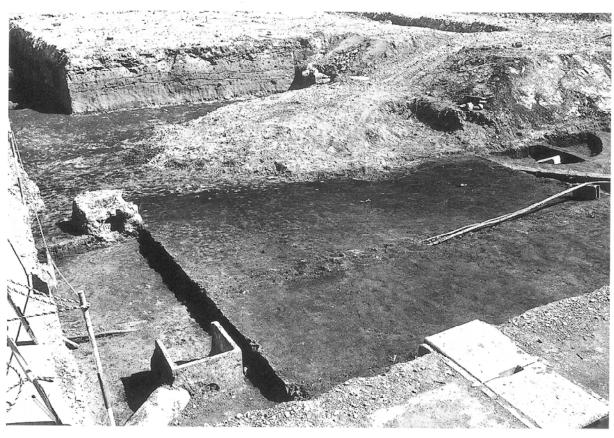
ST2住居跡完掘状況(南西から)



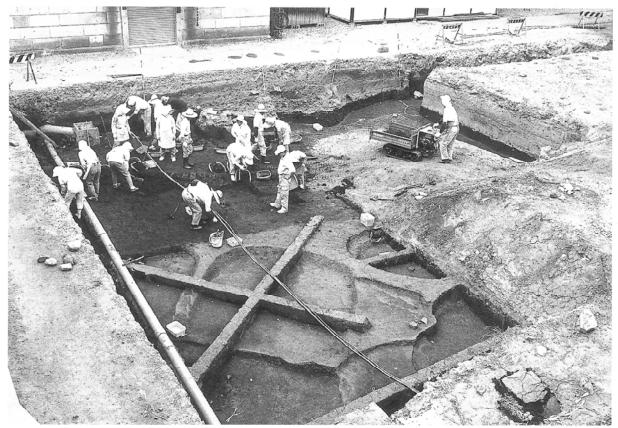
SK3土坑埋土状況(西から)



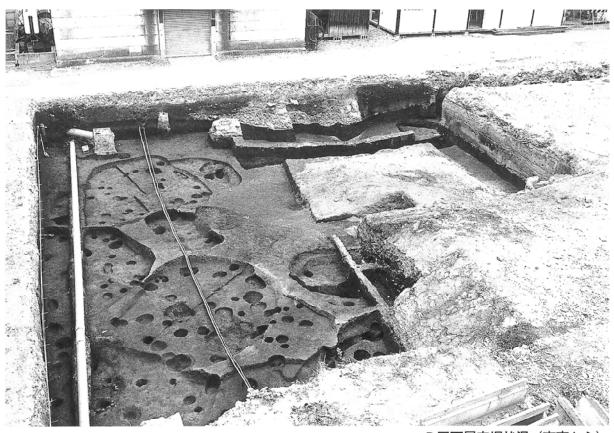
B区IV層面までの掘り下げ状況(北西から)



B区Ⅳ層面検出状況(南西から)



B区下層面整理作業状況(南東から)



B区下層完掘状況(南東から)



C区完掘状況(南から)



D区完掘状況(東から)



E 区完掘状況(北から)



旧河道掘り下げ状況(南から)



ST41・42・50住居跡完掘状況(南から)



EL60炉跡完掘状況(東から)



E L 60炉跡半截状況(南から)



SK49土坑半截状況(北から)



SK49土坑完掘状況(南から)